

阿南工業高等専門学校				一般教科（平成25年度以前入学生）								開講年度				平成23年度（2011年度）											
学科到達目標																											
科目区分		授業科目	科目番号	単位種別	単位数	学年別週当授業時数																担当教員	履修上の区分				
						1年				2年				3年				4年						5年			
						前		後		前		後		前		後		前		後				前		後	
						1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q			1Q	2Q	3Q	4Q
一般	必修	基礎数学 2	0010	履修単位	4					4		4														川崎 敏和	
一般	必修	数学B	0011	履修単位	2					2		2														川崎 敏和	
一般	選択	日本語総合	0012	履修単位	2					2		2														坪井 泰士	
一般	必修	英語 2	0013	履修単位	2					2		2														城本 春佳	
一般	選択	英語B	0014	履修単位	2					2		2														勝藤 和子	
一般	選択	英会話英作文	0015	履修単位	2					2		2														プロフントリストファー	
一般	選択	物理	0016	履修単位	2					2		2														松尾 俊寛	
一般	選択	物理実験・演習	0017	履修単位	1					2																平山 基	
一般	選択	化学 2	0018	履修単位	2					2		2														一森 勇人	
一般	選択	世界史	0019	履修単位	2					2		2														濱田 香織	
一般	選択	地理	0020	履修単位	2					2		2														宮本 寛和	
一般	選択	体育	0021	履修単位	2					2		2														新井 修	
一般	必修	英語 3	0022	履修単位	3									3		3										林田 栄治	
一般	必修	微分積分	0023	履修単位	4									4		4										川崎 敏和	
一般	必修	微分方程式	0024	履修単位	1										2											宮本 陽生	
一般	必修	数学C	0025	履修単位	1									2												宮本 陽生	
一般	選択	日本史	0026	履修単位	2									2		2										碓川 正美	
一般	選択	体育	0027	履修単位	2									2		2										新井 修	
一般	選択	日本語総合	0028	履修単位	2									2		2										錦織 浩文	
一般	選択	政治社会	0029	履修単位	2									2		2										今田 浩之	
一般	選択	英会話英作文	0030	履修単位	2									2		2										小笠原 麻衣子	
一般	必修	英語総合 1	0031	学修単位	2														2							谷中 俊裕	
一般	選択	法学	0032	履修単位	2													2		2						今田 浩之	
一般	選択	哲学	0033	履修単位	2													2		2						藤居 岳人	
一般	選択	体育	0034	履修単位	1														2							新井 修	
一般	選択	化学 3	0035	学修単位	2														2								
一般	選択	英語の語彙・文法（1）	0036	履修単位	1													2								林田 栄治	
一般	選択	英語の語彙・文法（2）	0037	履修単位	1														2							勝藤 和子	
一般	選択	経済学	0038	学修単位	2																		2			今田 浩之	
一般	選択	バイオテクノロジー	0039	学修単位	2																		2			一森 勇人	
一般	選択	体育	0040	履修単位	1															2						新井 修	
一般	選択	英語総合 2	0041	学修単位	2															2						勝藤 和子	

一般	選択	日本語の表現	0042	学修単位	2																2			錦織 浩文	
一般	選択	英語の語彙・文法（３）	0043	履修単位	1																2			谷中 俊裕	
一般	選択	英語の語彙・文法（４）	0044	履修単位	1																2			藤井 浩美	
一般	選択	中国語	0045	履修単位	1																2			鄭 涛	

阿南工業高等専門学校		開講年度	平成24年度 (2012年度)		授業科目	基礎数学 2	
科目基礎情報							
科目番号	0010		科目区分		一般 / 必修		
授業形態	授業		単位の種別と単位数		履修単位: 4		
開設学科	一般教科 (平成25年度以前入学生)		対象学年		2		
開設期	通年		週時間数		4		
教科書/教材	数学Ⅱ (数研出版)、微分積分-改- (裳華房) /はぎ取り式練習ドリル数学Ⅱ、Ⅲ (数研出版)						
担当教員	川崎 敏和						
到達目標							
1. 各種方程式、不等式を自在に解くことができる。 2. 方程式や不等式の表す図形や領域を作図できる。また、図形や領域を方程式や不等式で表すことができる。 3. 極限と微分の計算が確実にできる。 4. 微分を使って接線の方程式や増減表を求めることができる。また、増減表からグラフ描画と極値を求めることができる。 5. 不定積分と定積分の計算が確実にできる。また、定積分を使って面積を求めることができる。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1		3 次以上の高次方程式の解を求めることができる。関数の増減表を使って不等式を解くことができる。		3 次方程式を因数分解し、解の公式を使って方程式、不等式を解くことができる。		3 次方程式を因数分解して、2 次以下の式の積で表すことができない。	
評価項目2		複雑な領域を方程式と不等式を用いて表すことができる。		方程式や不等式の表す図形や領域を作図できる。また、図形や領域を方程式や不等式で表すことができる。		方程式や不等式の表す図形や領域を作図できない。また、図形や領域を方程式や不等式で表すことができない。	
評価項目3		複雑な合成関数の極限や微分を計算することができる。		極限と微分の計算が確実にできる。		極限と微分の計算が確実にできない。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要		数学は工業高専において根幹となる科目である。					
授業の進め方・方法		本授業では、高専数学での最重要事項である各種関数の取り扱い方、方程式の解き方、微分と積分の計算とその応用方法について学習する。					
注意点		1. 授業に集中して効率的に学習する方法を確立すること。予習復習は必須である。 2. 定期試験の勉強同様に、実力試験や小テストの勉強、宿題にも全力で取り組むこと。 3. 宿題などの課題は、提出期限を厳守すること。					
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	方程式・式と証明		整式の乗法・除法ができる。		
		2週	方程式・式と証明		整式の除法や因数定理を使って、式を因数分解できる。		
		3週	方程式・式と証明		整式の除法や因数定理を使って、式を因数分解できる。		
		4週	方程式・式と証明		因数分解を使って、高次方程式の解を求めることができる。		
		5週	方程式・式と証明		因数分解を使って、高次方程式の解を求めることができる。		
		6週	方程式・式と証明		分数式の加減乗除の計算ができる。		
		7週	方程式・式と証明		分数式の加減乗除の計算ができる。		
		8週	前期中間試験				
	2ndQ	9週	図形と方程式		座標平面上の 2 点間の距離を求めることができる。		
		10週	図形と方程式		内分点、外分点、三角形の重心の座標を求めることができる。		
		11週	図形と方程式		内分点、外分点、三角形の重心の座標を求めることができる。		
		12週	図形と方程式		直線、円の方程式を求めることができる。		
		13週	図形と方程式		直線、円の方程式を求めることができる。		
		14週	図形と方程式		不等式の表す領域を図示できる。		
		15週	図形と方程式		不等式の表す領域を図示できる。		
		16週					
後期	3rdQ	1週	微分積分の基礎		関数の極限を求めることができる。		
		2週	微分積分の基礎		微分ができる。微分係数を求めることができる。		
		3週	微分積分の基礎		関数の接線の方程式を求めることができる。		
		4週	微分積分の基礎		不定積分、定積分ができる。		
		5週	微分積分の基礎		不定積分、定積分ができる。		
		6週	微分積分の基礎		定積分を使って、図形の面積を求めることができる。		
		7週	微分積分の基礎		定積分を使って、図形の面積を求めることができる。		
		8週	後期中間試験				
	4thQ	9週	微分		分数関数、三角関数の極限を求めることができる。		
		10週	微分		分数関数、三角関数の極限を求めることができる。		
		11週	微分		積の微分、商の微分、合成関数の微分ができる。		

		12週	微分	積の微分、商の微分、合成関数の微分ができる。
		13週	微分	三角関数の計算が自在にでき、その微分ができる。
		14週	微分	三角関数の計算が自在にでき、その微分ができる。
		15週	微分	三角関数の計算が自在にでき、その微分ができる。
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	90	0	0	0	10	0	100
基礎的能力	90	0	0	0	10	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

阿南工業高等専門学校		開講年度	平成24年度 (2012年度)		授業科目	数学B
科目基礎情報						
科目番号	0011		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	一般教科 (平成25年度以前入学生)		対象学年	2		
開設期	通年		週時間数	2		
教科書/教材	「高等学校 数学B」岡部恒治ほか著 数研出版/「新課程チャート式基礎と演習 数学Ⅱ + B」					
担当教員	川崎 敏和					
到達目標						
1. ベクトルの基本的な計算ができる。 2. 平面および空間の成分表示ができ、基本的な計算ができる。 3. 平面および空間ベクトルの内積を求めることができる。 4. 平面および空間内の直線・平面・円・球の方程式を求めることができる。 5. 等差数列・等比数列の一般項やその和を求めることができ、総和記号を用いて数列の和が計算できる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	やや複雑なベクトルの和・差・定数倍の計算ができる。		ベクトルの和・差・定数倍の計算ができる。		ベクトルの和・差・定数倍の計算ができない。	
評価項目2	平面および空間ベクトルの成分表示ができ、複雑な計算ができる。		平面および空間ベクトルの成分表示ができ、基本的な計算ができる。		平面および空間ベクトルの成分表示ができない、または、複雑な計算ができない。	
評価項目3	平面および空間の内積を求めることができ、内積を用いてベクトルの大きさが計算できる。		平面および空間の内積を求めることができる。		平面および空間の内積を求めることができない。	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	数学は工業高校において根幹となる科目である。本授業では、平面および空間のベクトルの概念を学習し、基本的なベクトルの計算方法を習得する。数列では規則に従って並ぶ数やその和、および漸化式概念を学習する。					
授業の進め方・方法						
注意点	1. 授業に集中し、効果的に学習する方法を確立すること。予習復習は必須である。 2. 定期試験はもちろん重要であるが、平常の小テスト、提出物等での努力を怠らないこと。 3. 課題等提出物の提出期限は厳守すること。					
授業計画						
		週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	平面上のベクトルとその演算	ベクトルの定義を説明できる。 平面の和・差・定数倍の計算ができる。 平面ベクトルの成分表示ができ、基本的な計算ができる。 平面ベクトルの内積やベクトルのなす角を求めることができる。		
		2週	平面上のベクトルとその演算	ベクトルの定義を説明できる。 平面の和・差・定数倍の計算ができる。 平面ベクトルの成分表示ができ、基本的な計算ができる。 平面ベクトルの内積やベクトルのなす角を求めることができる。		
		3週	平面上のベクトルとその演算	ベクトルの定義を説明できる。 平面の和・差・定数倍の計算ができる。 平面ベクトルの成分表示ができ、基本的な計算ができる。 平面ベクトルの内積やベクトルのなす角を求めることができる。		
		4週	平面上のベクトルとその演算	ベクトルの定義を説明できる。 平面の和・差・定数倍の計算ができる。 平面ベクトルの成分表示ができ、基本的な計算ができる。 平面ベクトルの内積やベクトルのなす角を求めることができる。		
		5週	平面上のベクトルとその演算	ベクトルの定義を説明できる。 平面の和・差・定数倍の計算ができる。 平面ベクトルの成分表示ができ、基本的な計算ができる。 平面ベクトルの内積やベクトルのなす角を求めることができる。		
		6週	平面上のベクトルとその演算	ベクトルの定義を説明できる。 平面の和・差・定数倍の計算ができる。 平面ベクトルの成分表示ができ、基本的な計算ができる。 平面ベクトルの内積やベクトルのなす角を求めることができる。		
		7週	ベクトルと平面図形	位置ベクトルの意味を理解し、線分の内分点・外分点を求めることができる。		
		8週	ベクトルと平面図形	位置ベクトルの意味を理解し、線分の内分点・外分点を求めることができる。		
	2ndQ	9週	ベクトルと平面図形	位置ベクトルの意味を理解し、線分の内分点・外分点を求めることができる。		
		10週	ベクトルと平面図形	位置ベクトルの意味を理解し、線分の内分点・外分点を求めることができる。		

後期		11週	ベクトルと平面図形	位置ベクトルの意味を理解し、線分の内分点・外分点を求めることができる。
		12週	前期中間試験	
		13週	空間のベクトル	座標空間を理解し、座標平面に平行な平面の方程式がいえる。 空間ベクトルの成分表示ができ、基本的な計算ができる。 空間ベクトルの平行・垂直条件を利用することができる。 空間内の直線・平面・球の方程式を求めることができる。
		14週	空間のベクトル	座標空間を理解し、座標平面に平行な平面の方程式がいえる。 空間ベクトルの成分表示ができ、基本的な計算ができる。 空間ベクトルの平行・垂直条件を利用することができる。 空間内の直線・平面・球の方程式を求めることができる。
		15週	空間のベクトル	座標空間を理解し、座標平面に平行な平面の方程式がいえる。 空間ベクトルの成分表示ができ、基本的な計算ができる。 空間ベクトルの平行・垂直条件を利用することができる。 空間内の直線・平面・球の方程式を求めることができる。
		16週		
	3rdQ	1週	空間のベクトル	座標空間を理解し、座標平面に平行な平面の方程式がいえる。 空間ベクトルの成分表示ができ、基本的な計算ができる。 空間ベクトルの平行・垂直条件を利用することができる。 空間内の直線・平面・球の方程式を求めることができる。
		2週	空間のベクトル	座標空間を理解し、座標平面に平行な平面の方程式がいえる。 空間ベクトルの成分表示ができ、基本的な計算ができる。 空間ベクトルの平行・垂直条件を利用することができる。 空間内の直線・平面・球の方程式を求めることができる。
		3週	空間のベクトル	座標空間を理解し、座標平面に平行な平面の方程式がいえる。 空間ベクトルの成分表示ができ、基本的な計算ができる。 空間ベクトルの平行・垂直条件を利用することができる。 空間内の直線・平面・球の方程式を求めることができる。
		4週	空間のベクトル	座標空間を理解し、座標平面に平行な平面の方程式がいえる。 空間ベクトルの成分表示ができ、基本的な計算ができる。 空間ベクトルの平行・垂直条件を利用することができる。 空間内の直線・平面・球の方程式を求めることができる。
		5週	空間のベクトル	座標空間を理解し、座標平面に平行な平面の方程式がいえる。 空間ベクトルの成分表示ができ、基本的な計算ができる。 空間ベクトルの平行・垂直条件を利用することができる。 空間内の直線・平面・球の方程式を求めることができる。
		6週	数列とその和	等差数列の一般項やその和を求めることができる。 等比数列の一般項やその和を求めることができる。
		7週	数列とその和	等差数列の一般項やその和を求めることができる。 等比数列の一般項やその和を求めることができる。
		8週	数列とその和	等差数列の一般項やその和を求めることができる。 等比数列の一般項やその和を求めることができる。
		9週	数列とその和	等差数列の一般項やその和を求めることができる。 等比数列の一般項やその和を求めることができる。
		10週	数列とその和	等差数列の一般項やその和を求めることができる。 等比数列の一般項やその和を求めることができる。
		11週	数列とその和	等差数列の一般項やその和を求めることができる。 等比数列の一般項やその和を求めることができる。
		12週	後期中間試験	
		13週	漸化式	総和記号を用いた基本的な数列の和を計算することができる。
		14週	漸化式	総和記号を用いた基本的な数列の和を計算することができる。

		15週					
		16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週		
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	90	0	0	0	10	0	100
基礎的能力	90	0	0	0	10	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

阿南工業高等専門学校		開講年度	平成24年度 (2012年度)		授業科目	英語 2	
科目基礎情報							
科目番号	0013			科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業			単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	一般教科 (平成25年度以前入学生)			対象学年	2		
開設期	通年			週時間数	2		
教科書/教材	POLSTAR English Communication II 及び準拠ナビゲーションノート、ワークブック Standaed (数研出版)、Data Base 3000 及び準拠定着ノートC (桐原書店) /Harvest 3rd.Ed. (桐原書店)						
担当教員	城本 春佳						
到達目標							
1. 200語～300語程度の英文を正確に理解できるようになる。 2. 教科書・語彙集などの教材で扱われている語句及び重要表現を理解し、運用できるようになる。 3. 教科書で取り上げた文法項目を理解し、運用できるようになる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	200語～300語程度の英文を精読し、内容や文の構造を正確に理解できる。			200語～300語程度の英文を精読し、内容をほぼ正確に理解できる。		左記のレベルに達しない。	
評価項目2	教科書・語彙集などの教材で学習した語彙・表現を適切な文脈において理解し、自ら運用できる。			教科書・語彙集などの教材で学習した語彙・表現を理解し、スペルを書くことができる。		左記のレベルに達しない。	
評価項目3	教科書で取り上げた文法事項や構文を適切な文脈において理解し、自ら運用できる。			教科書で取り上げた文法事項や構文を文脈の中で理解できる。		左記のレベルに達しない。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	教科書の読み物の読解演習を通して、英語の4技能の総合的運用能力の向上を目指す。						
授業の進め方・方法							
注意点	1. 授業には英和辞書 (電子辞書可) を持参すること。 2. オリエンテーションで説明するやり方で十分予習・復習を行うこと。 3. 下記授業計画以外に便宜小テスト、実力テストを実施する。						
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	オリエンテーション		シラバスの確認、学習方法の解説		
		2週	Lesson1～3		教科書で扱った英文の構造と意味を正確に理解できるようになる。 教科書・語彙集で扱った単語及び重要表現を理解し、運用できる。 完了不定形、不定詞の受動態、助動詞＋過去分詞、関係節の継続用法、進行形の受動態を含む構文を理解し、英作等に応用できるようになる。		
		3週	Lesson1～3		教科書で扱った英文の構造と意味を正確に理解できるようになる。 教科書・語彙集で扱った単語及び重要表現を理解し、運用できる。 完了不定形、不定詞の受動態、助動詞＋過去分詞、関係節の継続用法、進行形の受動態を含む構文を理解し、英作等に応用できるようになる。		
		4週	Lesson1～3		教科書で扱った英文の構造と意味を正確に理解できるようになる。 教科書・語彙集で扱った単語及び重要表現を理解し、運用できる。 完了不定形、不定詞の受動態、助動詞＋過去分詞、関係節の継続用法、進行形の受動態を含む構文を理解し、英作等に応用できるようになる。		
		5週	Lesson1～3		教科書で扱った英文の構造と意味を正確に理解できるようになる。 教科書・語彙集で扱った単語及び重要表現を理解し、運用できる。 完了不定形、不定詞の受動態、助動詞＋過去分詞、関係節の継続用法、進行形の受動態を含む構文を理解し、英作等に応用できるようになる。		
		6週	Lesson1～3		教科書で扱った英文の構造と意味を正確に理解できるようになる。 教科書・語彙集で扱った単語及び重要表現を理解し、運用できる。 完了不定形、不定詞の受動態、助動詞＋過去分詞、関係節の継続用法、進行形の受動態を含む構文を理解し、英作等に応用できるようになる。		
		7週	Lesson1～3		教科書で扱った英文の構造と意味を正確に理解できるようになる。 教科書・語彙集で扱った単語及び重要表現を理解し、運用できる。 完了不定形、不定詞の受動態、助動詞＋過去分詞、関係節の継続用法、進行形の受動態を含む構文を理解し、英作等に応用できるようになる。		
		8週	前期中間試験				

後期	2ndQ	9週	Lesson4~6	教科書で扱った英文の構造と意味を正確に理解できるようになる。 教科書・語彙集で扱った単語及び重要表現を理解し、運用できる。 完了形の分詞構文、未来完了形、句や節を受ける which、be+to不定詞を含む構文を理解し、英作等に 応用できるようになる。	
		10週	Lesson4~6	教科書で扱った英文の構造と意味を正確に理解できるようになる。 教科書・語彙集で扱った単語及び重要表現を理解し、運用できる。 完了形の分詞構文、未来完了形、句や節を受ける which、be+to不定詞を含む構文を理解し、英作等に 応用できるようになる。	
		11週	Lesson4~6	教科書で扱った英文の構造と意味を正確に理解できるようになる。 教科書・語彙集で扱った単語及び重要表現を理解し、運用できる。 完了形の分詞構文、未来完了形、句や節を受ける which、be+to不定詞を含む構文を理解し、英作等に 応用できるようになる。	
		12週	Lesson4~6	教科書で扱った英文の構造と意味を正確に理解できるようになる。 教科書・語彙集で扱った単語及び重要表現を理解し、運用できる。 完了形の分詞構文、未来完了形、句や節を受ける which、be+to不定詞を含む構文を理解し、英作等に 応用できるようになる。	
		13週	Lesson4~6	教科書で扱った英文の構造と意味を正確に理解できるようになる。 教科書・語彙集で扱った単語及び重要表現を理解し、運用できる。 完了形の分詞構文、未来完了形、句や節を受ける which、be+to不定詞を含む構文を理解し、英作等に 応用できるようになる。	
		14週	Lesson4~6	教科書で扱った英文の構造と意味を正確に理解できるようになる。 教科書・語彙集で扱った単語及び重要表現を理解し、運用できる。 完了形の分詞構文、未来完了形、句や節を受ける which、be+to不定詞を含む構文を理解し、英作等に 応用できるようになる。	
		15週	Lesson4~6	教科書で扱った英文の構造と意味を正確に理解できるようになる。 教科書・語彙集で扱った単語及び重要表現を理解し、運用できる。 完了形の分詞構文、未来完了形、句や節を受ける which、be+to不定詞を含む構文を理解し、英作等に 応用できるようになる。	
		16週			
	3rdQ	1週	Lesson7~9	教科書で扱った英文の構造と意味を正確に理解できるようになる。 教科書・語彙集で扱った単語及び重要表現を理解し、運用できる。 複合関係詞、仮定法現在を含む構文を理解し、英作等に 応用できるようになる。	
		2週	Lesson7~9	教科書で扱った英文の構造と意味を正確に理解できるようになる。 教科書・語彙集で扱った単語及び重要表現を理解し、運用できる。 複合関係詞、仮定法現在を含む構文を理解し、英作等に 応用できるようになる。	
		3週	Lesson7~9	教科書で扱った英文の構造と意味を正確に理解できるようになる。 教科書・語彙集で扱った単語及び重要表現を理解し、運用できる。 複合関係詞、仮定法現在を含む構文を理解し、英作等に 応用できるようになる。	
		4週	Lesson7~9	教科書で扱った英文の構造と意味を正確に理解できるようになる。 教科書・語彙集で扱った単語及び重要表現を理解し、運用できる。 複合関係詞、仮定法現在を含む構文を理解し、英作等に 応用できるようになる。	
		5週	Lesson7~9	教科書で扱った英文の構造と意味を正確に理解できるようになる。 教科書・語彙集で扱った単語及び重要表現を理解し、運用できる。 複合関係詞、仮定法現在を含む構文を理解し、英作等に 応用できるようになる。	
		6週	Lesson7~9	教科書で扱った英文の構造と意味を正確に理解できるようになる。 教科書・語彙集で扱った単語及び重要表現を理解し、運用できる。 複合関係詞、仮定法現在を含む構文を理解し、英作等に 応用できるようになる。	

		7週	Lesson7~9	教科書で扱った英文の構造と意味を正確に理解できるようになる。 教科書・語彙集で扱った単語及び重要表現を理解し、運用できる。 複合関係詞、仮定法現在を含む構文を理解し、英作等に応用できるようになる。
		8週	後期中間試験	
	4thQ	9週	Lesson10~12	教科書で扱った英文の構造と意味を正確に理解できるようになる。 教科書・語彙集で扱った単語及び重要表現を理解し、運用できる。 過去分詞の分詞構文、様々な仮定法、付帯状況のwithを含む構文を理解し、英作等に応用できるようになる。
		10週	Lesson10~12	教科書で扱った英文の構造と意味を正確に理解できるようになる。 教科書・語彙集で扱った単語及び重要表現を理解し、運用できる。 過去分詞の分詞構文、様々な仮定法、付帯状況のwithを含む構文を理解し、英作等に応用できるようになる。
		11週	Lesson10~12	教科書で扱った英文の構造と意味を正確に理解できるようになる。 教科書・語彙集で扱った単語及び重要表現を理解し、運用できる。 過去分詞の分詞構文、様々な仮定法、付帯状況のwithを含む構文を理解し、英作等に応用できるようになる。
		12週	Lesson10~12	教科書で扱った英文の構造と意味を正確に理解できるようになる。 教科書・語彙集で扱った単語及び重要表現を理解し、運用できる。 過去分詞の分詞構文、様々な仮定法、付帯状況のwithを含む構文を理解し、英作等に応用できるようになる。
		13週	Lesson10~12	教科書で扱った英文の構造と意味を正確に理解できるようになる。 教科書・語彙集で扱った単語及び重要表現を理解し、運用できる。 過去分詞の分詞構文、様々な仮定法、付帯状況のwithを含む構文を理解し、英作等に応用できるようになる。
		14週	Lesson10~12	教科書で扱った英文の構造と意味を正確に理解できるようになる。 教科書・語彙集で扱った単語及び重要表現を理解し、運用できる。 過去分詞の分詞構文、様々な仮定法、付帯状況のwithを含む構文を理解し、英作等に応用できるようになる。
		15週	Lesson10~12	教科書で扱った英文の構造と意味を正確に理解できるようになる。 教科書・語彙集で扱った単語及び重要表現を理解し、運用できる。 過去分詞の分詞構文、様々な仮定法、付帯状況のwithを含む構文を理解し、英作等に応用できるようになる。
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	60	0	0	10	20	10	100
基礎的能力	60	0	0	10	20	10	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

阿南工業高等専門学校		開講年度	平成24年度 (2012年度)		授業科目	英会話英作文
科目基礎情報						
科目番号	0015		科目区分	一般 / 選択		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	一般教科 (平成25年度以前入学生)		対象学年	2		
開設期	通年		週時間数	2		
教科書/教材	Identify, Joseph Shaules, Hiroko Tsujioka, Miyuki Iida, Oxford University Press2004					
担当教員	プロワント クリストファー					
到達目標						
1. Improve basic communication skill 2. Gain confidence in speaking, listening, and writing skills 3. Develop listening strategies using native English 4. Develop common sense and critical thinking skills, especially regarding communication						
ルーブリック						
		理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1		Students are able to converse smoothly with one another and the native teacher.	Students can answer a question or make a comment in a few words and speak freely in a group.		Students cannot understand the majority of exercises and activities and cannot speak easily.	
評価項目2		Students speak their opinions directry and utilize critical thinking skills in English.	Students can answer the majority of questions, listen attentively and write their ideas clearly.		Students remain passive, do not express themselves and cannot comprehend the lecture.	
評価項目3		Students can take notes entirely in English, and can present their ideas clearly and concisely.	Students can take notes in Japanese, and grasp the main idea of the lecture but not the details.		Students can take notes in Japanese and do not understand much of the lecture.	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要		This course uses basic English which is necessary to understand intercultural relations. We will do extensive speaking and listening exercises. Reading and writing communication exercises will also be given daily.				
授業の進め方・方法						
注意点		1. Students will come to class prepared. 2. Sleeping in class or using a cell phone (keitai) in class equals one tardiness on the first warning. 3. Students will keep their name tag on the desk durling the class. 4. Students will laugh and have fun.				
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	Unit1 Identity		Characteristics, Feelings and Beliefs	
		2週	Unit1 Identity		Characteristics, Feelings and Beliefs	
		3週	Unit2 Values		Families, Cultures and Personalities	
		4週	Unit2 Values		Families, Cultures and Personalities	
		5週	Unit3 Culture Shock		LIfе Experiences, Confusion when Traveling Abroad	
		6週	Unit3 Culture Shock		LIfе Experiences, Confusion when Traveling Abroad	
		7週	Unit3 Culture Shock		LIfе Experiences, Confusion when Traveling Abroad	
		8週	Mid Term Exam			
	2ndQ	9週	Unit4 Culture in Language		Language reflects the culture of people who speak it.	
		10週	Unit4 Culture in Language		Language reflects the culture of people who speak it.	
		11週	Unit5 Body Language and Customs		Customs and Non-verbal Communication	
		12週	Unit5 Body Language and Customs		Customs and Non-verbal Communication	
		13週	Unit6 Individualism		Independent vs Collectivist Culture	
		14週	Unit6 Individualism		Independent vs Collectivist Culture	
		15週	Unit6 Individualism		Independent vs Collectivist Culture	
		16週				
後期	3rdQ	1週	Unit7 Politeness		Courtesy and Respect, Formal vs Casual	
		2週	Unit7 Politeness		Courtesy and Respect, Formal vs Casual	
		3週	Unit8 Communication Styles		Reserved, Flexible and Expressive style	
		4週	Unit8 Communication Styles		Reserved, Flexible and Expressive style	
		5週	Unit9 Gender and Culture		Men and Women; Different contexts and cultures	
		6週	Unit9 Gender and Culture		Men and Women; Different contexts and cultures	
		7週	Unit9 Gender and Culture		Men and Women; Different contexts and cultures	
		8週	Second Mid Term Exam			
	4thQ	9週	Unit10 Diversity		Stereotypes, Racism, Interest in Diversity	
		10週	Unit10 Diversity		Stereotypes, Racism, Interest in Diversity	
		11週	Unit11 Social Culture		Discrimination. Modern Times. Traditional Values	

		12週	Unit11 Social Culture	Discrimination, Modern Times, Traditional Values
		13週	Unit12 Global Community	Various cultures with good relationships
		14週	Unit12 Global Community	Various cultures with good relationships
		15週	Unit12 Global Community	Various cultures with good relationships
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	60	5	0	5	20	10	100
基礎的能力	60	5	0	5	20	10	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

阿南工業高等専門学校		開講年度	平成24年度 (2012年度)		授業科目	物理
科目基礎情報						
科目番号	0016			科目区分	一般 / 選択	
授業形態	授業			単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	一般教科 (平成25年度以前入学生)			対象学年	2	
開設期	通年			週時間数	2	
教科書/教材	物理基礎、物理 (数研) /リードα (数研)					
担当教員	松尾 俊寛					
到達目標						
1. 物体の基本的な運動において力学的エネルギー保存則を表す式を立てることができる 2. 運動量や力積を用いて速度の変化や加えられた力を求めることができる 3. 円運動や単振動に関する基本的な問題を扱うことができ、周期などの物理量を求めることができる 4. 熱量の保存を用いて物体の熱容量や比熱を求めることができる 5. 熱力学第一法則にもとづいて気体の状態変化を説明できる						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	力学的エネルギー保存則を表す式をたて、それを用いて物体の運動を決定することができる		物体の基本的な運動において力学的エネルギー保存則を表す式を立てることができる		物体の基本的な運動において力学的エネルギー保存則を表す式を立てることができない	
評価項目2	運動方程式から運動量と力積の関係を説明でき、それらを用いて運動の諸量を求め得ることができる		運動量や力積を用いて速度の変化や加えられた力を求めることができる		運動量や力積を用いて速度の変化や加えられた力を求めることができない	
評価項目3	円運動と単振動の関係を説明でき、お互いの問題解決に利用することができる		円運動や単振動に関する基本的な問題を扱うことができ、周期などの物理量を求めることができる		円運動や単振動に関する基本的な問題を扱うことができ、周期などの物理量を求めることができない	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	物理学は自然現象の探求を目的として発展した学問であるが、その成果は現代科学技術の基礎としてあらゆる分野に使われている。					
授業の進め方・方法	本講義では、物理学の学習を通じて自然現象を系統的・論理的に考えていく力を養い、広く自然の諸現象を科学的に解明するための物理的な見方、考え方を身につける。2年では、力学、熱力学を中心に学習する。					
注意点	予習・講義・演習・復習・小テストで自分の理解度を確認しながら学習を進めてください。なお、本講義は前期開講の「物理実験・演習」とリンクしています。					
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	仕事と力学的エネルギー		仕事とエネルギーの関係を説明できる	
		2週	仕事と力学的エネルギー		仕事とエネルギーの関係を説明できる	
		3週	仕事と力学的エネルギー		仕事とエネルギーの関係を説明できる	
		4週	運動量の保存		運動量保存則を用いて物体の速度を計算できる	
		5週	運動量の保存		運動量保存則を用いて物体の速度を計算できる	
		6週	運動量の保存		運動量保存則を用いて物体の速度を計算できる	
		7週	運動量の保存		運動量保存則を用いて物体の速度を計算できる	
		8週	前期中間試験			
	2ndQ	9週	円運動		円運動する物体の速度、加速度の関係をつかって円運動を説明できる	
		10週	円運動		円運動する物体の速度、加速度の関係をつかって円運動を説明できる	
		11週	円運動		円運動する物体の速度、加速度の関係をつかって円運動を説明できる	
		12週	単振動		単振動の運動方程式を扱うことができ、周期などの基本的諸量が計算できる	
		13週	単振動		単振動の運動方程式を扱うことができ、周期などの基本的諸量が計算できる	
		14週	万有引力		2物体間の間に働く万有引力を求めることができる	
		15週	万有引力		2物体間の間に働く万有引力を求めることができる	
		16週				
後期	3rdQ	1週	熱とエネルギー		熱量の保存を用いて物体の比熱を計算できる	
		2週	熱とエネルギー		熱量の保存を用いて物体の比熱を計算できる	
		3週	熱とエネルギー		熱量の保存を用いて物体の比熱を計算できる	
		4週	気体の法則		気体の法則を用いて気体の状態を計算できる	
		5週	気体の法則		気体の法則を用いて気体の状態を計算できる	
		6週	気体分子の運動		気体分子の運動によって温度や圧力などの巨視的量を説明できる	
		7週	気体分子の運動		気体分子の運動によって温度や圧力などの巨視的量を説明できる	
		8週	後期中間試験			
	4thQ	9週	熱力学第一法則と気体の状態変化		熱力学第一法則により気体の状態変化を説明でき、状態量の計算ができる	
		10週	熱力学第一法則と気体の状態変化		熱力学第一法則により気体の状態変化を説明でき、状態量の計算ができる	

		11週	熱力学第一法則と気体の状態変化	熱力学第一法則により気体の状態変化を説明でき、状態量の計算ができる
		12週	不可逆変化と熱機関	熱が関与する変化は一般に不可逆であることを説明できる
		13週	不可逆変化と熱機関	熱が関与する変化は一般に不可逆であることを説明できる
		14週	波の性質	波の基本的性質を理解し、波の速さや振動数を計算できる
		15週	波の性質	波の基本的性質を理解し、波の速さや振動数を計算できる
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	60	0	0	10	20	10	100
基礎的能力	40	0	0	10	10	10	70
専門的能力	20	0	0	0	5	0	25
分野横断的能力	0	0	0	0	5	0	5

阿南工業高等専門学校		開講年度	平成24年度 (2012年度)		授業科目	化学 2		
科目基礎情報								
科目番号	0018			科目区分	一般 / 選択			
授業形態	授業			単位の種別と単位数	履修単位: 2			
開設学科	一般教科 (平成25年度以前入学生)			対象学年	2			
開設期	通年			週時間数	2			
教科書/教材	高等学校 化学 I 基礎 (第1学習社) /これでわかる化学 (三共出版)							
担当教員	一森 勇人							
到達目標								
1. 酸化還元反応の量的な計算ができる。 2. 無機物質の特徴を理解できる。 3. 有機化合物の特徴を理解できる。								
ルーブリック								
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1		酸化還元反応を理解して量的な計算ができる。		酸化還元反応の量的な計算ができる。		酸化還元反応の量的な計算ができない。		
評価項目2		無機物質の特徴を理解でき、説明できる。		無機物質の特徴を理解できる。		無機物質の特徴を理解できない。		
評価項目3		有機化合物の特徴を理解でき、説明できる。		有機化合物の特徴を理解できる。		有機化合物の特徴を理解できない。		
学科の到達目標項目との関係								
教育方法等								
概要		本講義は1年の学習をふまえて、さらに深い化学的知識を身につけることを目的としている。						
授業の進め方・方法		先ず、酸化還元反応について学んだ後、無機物質・有機物質の諸性質について学習していく。						
注意点								
授業計画								
前期	1stQ	週	授業内容			週ごとの到達目標		
		1週	酸化還元反応			酸化と還元		
		2週	酸化還元反応			酸化と還元		
		3週	酸化還元反応			酸化剤と還元剤の反応		
		4週	酸化還元反応			酸化剤と還元剤の反応		
		5週	酸化還元反応			金属のイオン化傾向		
		6週	酸化還元反応			金属のイオン化傾向		
		7週	酸化還元反応			金属のイオン化傾向		
	8週	中間試験						
	2ndQ	9週	酸化還元反応			酸化還元反応の利用		
		10週	酸化還元反応			酸化還元反応の利用		
		11週	酸化還元反応			電池		
		12週	酸化還元反応			電池		
		13週	酸化還元反応			電気分解		
		14週	酸化還元反応			電気分解		
		15週	酸化還元反応			電気分解		
		16週						
後期	3rdQ	1週	無機物質			非金属元素の単体と化合物		
		2週	無機物質			非金属元素の単体と化合物		
		3週	無機物質			典型金属元素の単体と化合物		
		4週	無機物質			典型金属元素の単体と化合物		
		5週	無機物質			遷移元素の単体と化合物		
		6週	無機物質			遷移元素の単体と化合物		
		7週	無機物質			遷移元素の単体と化合物		
		8週	中間試験					
	4thQ	9週	有機物質			有機化合物の特徴と分類		
		10週	有機物質			脂肪族炭化水素		
		11週	有機物質			脂肪族炭化水素		
		12週	有機物質			酸素を含む脂肪族化合物		
		13週	有機物質			酸素を含む脂肪族化合物		
		14週	有機物質			芳香族化合物		
		15週	有機物質			芳香族化合物		
		16週						
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標								
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週	
評価割合								
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計	
総合評価割合	80	0	0	0	10	10	100	

基礎的能力	60	0	0	0	10	10	80
專門的能力	10	0	0	0	0	0	10
分野横断的能力	10	0	0	0	0	0	10

阿南工業高等専門学校		開講年度	平成24年度 (2012年度)		授業科目	世界史
科目基礎情報						
科目番号	0019		科目区分	一般 / 選択		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	一般教科（平成25年度以前入学生）		対象学年	2		
開設期	通年		週時間数	2		
教科書/教材	世界史B（東京書院）/歴史年表（東京書院）					
担当教員	濱田 香織					
到達目標						
1. 日本列島の歴史と関連付けながら世界の歴史を理解できる。 2. 人類が各地の自然環境に適応しながら、諸文明を築き上げ、地域世界を形成したことを理解できる。 3. 民族問題などの文化的相違に起因する諸問題について、歴史的観点から説明できる。 4. 現代社会におけるあらゆる問題が地球規模のものであることを理解し、将来の課題を考えることができる。						
ルーブリック						
		理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	日本列島の歴史と関連付けながら世界の歴史に関する基礎的な知識について、詳細に説明できる。		日本列島の歴史と関連付けながら世界の歴史に関する基礎的な知識について、説明できる。	日本列島の歴史と関連付けながら世界の歴史に関する基礎的な知識について、十分に説明できない。		
評価項目2	人類が築いた諸文明に関する基礎的な知識について、詳細に説明できる。		人類が築いた諸文明に関する基礎的な知識について、十分に説明できる。	人類が築いた諸文明に関する基礎的な知識について、十分に説明できない。		
評価項目3	民族問題などの文化的相違に起因する諸問題について、歴史的観点から詳細に説明できる。		民族問題などの文化的相違に起因する諸問題について、歴史的観点から説明できる。	民族問題などの文化的相違に起因する諸問題について、歴史的観点から十分に説明できない。		
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	世界の歴史への興味・関心を高め、世界の歴史の大きな枠組みと流れを理解する。世界史の学習により、日本の歴史を世界の様々な地域の歴史と比較して考察する力や日本を外から見る視点を養う。国家間や国家内でみられる民族問題など、文化的相違に起因する諸問題について、歴史的観点から理解し、文化に多様性を認識し、お互いの文化を尊重する態度を身につける。					
授業の進め方・方法						
注意点	講義での学習内容を定期試験で確認しますので、講義を毎回しっかり聴くことを心がけてください。					
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	さまざまな地域世界		オリエント世界と東地中海世界・地中海世界の成り立ちを説明できる。	
		2週	さまざまな地域世界		世界・地中海世界の成り立ちを説明できる。	
		3週	さまざまな地域世界		南アジア世界・東アジア世界における各王朝について説明できる。	
		4週	さまざまな地域世界		南アジア世界・東アジア世界における各王朝について説明できる。	
		5週	さまざまな地域世界		内陸ユーラシア世界・東南アジア世界・古アメリカ世界について説明できる。	
		6週	結び合う地域世界		イスラーム世界の形成について説明できる。	
		7週	結び合う地域世界		イスラーム世界の形成について説明できる。	
		8週	中間試験			
	2ndQ	9週	結び合う地域世界		ヨーロッパ世界の形成について説明できる。	
		10週	結び合う地域世界		ヨーロッパ世界の形成について説明できる。	
		11週	結び合う地域世界		東アジア世界の変容とモンゴル帝国について説明できる。	
		12週	結び合う地域世界		東アジア世界の変容とモンゴル帝国について説明できる。	
		13週	一体化する世界		ユーラシア諸帝国の繁栄について説明できる。	
		14週	一体化する世界		近世のヨーロッパについて説明できる。	
		15週	一体化する世界		近世のヨーロッパについて説明できる。	
		16週				
後期	3rdQ	1週	一体化の進展と世界の再編		欧米における工業化と国民国家の形成について説明できる。	
		2週	一体化の進展と世界の再編		欧米における工業化と国民国家の形成について説明できる。	
		3週	一体化の進展と世界の再編		欧米における工業化と国民国家の形成について説明できる。	
		4週	一体化の進展と世界の再編		産業資本主義の発展と帝国主義について説明できる。	
		5週	一体化の進展と世界の再編		産業資本主義の発展と帝国主義について説明できる。	
		6週	一体化の進展と世界の再編		アジア諸地域に変革運動について説明できる。	
		7週	一体化の進展と世界の再編		アジア諸地域に変革運動について説明できる。	
		8週	後期中間試験			
	4thQ	9週	地球世界の成立		世界戦争が起きた背景とその経過を説明できる。	
		10週	地球世界の成立		世界戦争が起きた背景とその経過を説明できる。	
		11週	地球世界の成立		世界戦争が起きた背景とその経過を説明できる。	

		12週	地球世界の成立	国民国家体制と東西の対立について説明できる。
		13週	地球世界の成立	国民国家体制と東西の対立について説明できる。
		14週	地球世界の成立	経済のグローバル化と地域統合について説明できる。
		15週	地球世界の成立	新しい国際秩序について理解し、諸課題への取り組みを考えることができる。
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	0	0	0	30	0	100
基礎的能力	70	0	0	0	30	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

阿南工業高等専門学校		開講年度	平成24年度 (2012年度)		授業科目	地理
科目基礎情報						
科目番号	0020		科目区分	一般 / 選択		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	一般教科 (平成25年度以前入学生)		対象学年	2		
開設期	通年		週時間数	2		
教科書/教材	新詳地理(帝国書院)/新詳高等地図(帝国書院)					
担当教員	宮本 寛和					
到達目標						
1. 自然環境、資源、産業、都市・村落、生活文化に関する地域性について系統地理的に理解できる。 2. 現代世界を構成する各地域を地誌的に考察し、多様な特色を持っていることを理解できる。 3. 地理的に考察する意義や有用性に気づき、地理的な見方や考え方を身につけられる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	自然環境と人間生活のかかわりと地域性について、地理的事象から課題を設定し、追究できる。		自然環境と人間生活のかかわりと地域性を系統地理的に理解し、それらの知識を身につけて説明できる。		自然環境と人間生活について、個別の事象のみ説明できる。	
評価項目2	現代社会の各地域に関する資料や情報を地誌的に追究する技能を身につけ、まとめることができる。		現代社会の各地域について、多様な特色があることを理解し、それらの知識を身につけて説明できる。		現代社会の各地域について、特定の国・項目についてのみ説明できる。	
評価項目3	現代世界の多様性や地域性をとらえる視点や方法を考察し、系統地理・地誌の両面から説明できる。		地理的に考察する意義と有用性に気づき、現代世界と日本を概観し、地理的事象について説明できる。		地図を見て、現代社会の各地域の位置と地形のみ説明できる。	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	現代世界の地理的事象を系統地理的、地誌的に考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う。					
授業の進め方・方法						
注意点	都道府県名や主要国名、首都名などは地理学習の基本です。地図帳を開く習慣を身につけてください。					
授業計画						
前期	1stQ	週	授業内容		週ごとの到達目標	
		1週	地理情報と地図、地図の活用		地図でとらえる現代世界について、地図化のメリットや地図化だわかることを考察し、地図化の技能を習得している。	
		2週	自然環境		地形および気候の特徴と人間生活への影響の多様性や地域性を大観し、それらの知識を身につけている。	
		3週	自然環境		地形および気候の特徴と人間生活への影響の多様性や地域性を大観し、それらの知識を身につけている。	
		4週	自然環境		地形および気候の特徴と人間生活への影響の多様性や地域性を大観し、それらの知識を身につけている。	
		5週	自然環境		地形および気候の特徴と人間生活への影響の多様性や地域性を大観し、それらの知識を身につけている。	
		6週	自然環境		地形および気候の特徴と人間生活への影響の多様性や地域性を大観し、それらの知識を身につけている。	
		7週	自然環境		地形および気候の特徴と人間生活への影響の多様性や地域性を大観し、それらの知識を身につけている。	
	8週	資源と産業		産業の発達と変化について、自然環境とのかかわりやグローバル化の視点から考察できる。		
	2ndQ	9週	資源と産業		産業の発達と変化について、自然環境とのかかわりやグローバル化の視点から考察できる。	
		10週	資源と産業		産業の発達と変化について、自然環境とのかかわりやグローバル化の視点から考察できる。	
		11週	資源と産業		産業の発達と変化について、自然環境とのかかわりやグローバル化の視点から考察できる。	
		12週	資源と産業		産業の発達と変化について、自然環境とのかかわりやグローバル化の視点から考察できる。	
		13週	資源と産業		産業の発達と変化について、自然環境とのかかわりやグローバル化の視点から考察できる。	
		14週	資源と産業		産業の発達と変化について、自然環境とのかかわりやグローバル化の視点から考察できる。	
		15週	前期末試験			
16週						
後期	3rdQ	1週	人口、村落・都市		村落・都市の立地や発達・機能に関する資料や情報を系統地理的に追究する技能を身につけている。	
		2週	人口、村落・都市		村落・都市の立地や発達・機能に関する資料や情報を系統地理的に追究する技能を身につけている。	
		3週	人口、村落・都市		村落・都市の立地や発達・機能に関する資料や情報を系統地理的に追究する技能を身につけている。	

		4週	生活文化、民族・宗教	衣食住の差異と社会のかかわりについて感心を高め、それらの多様性や地域性をとらえる視点や方法を身につけている。
		5週	生活文化、民族・宗教	衣食住の差異と社会のかかわりについて感心を高め、それらの多様性や地域性をとらえる視点や方法を身につけている。
		6週	生活文化、民族・宗教	衣食住の差異と社会のかかわりについて感心を高め、それらの多様性や地域性をとらえる視点や方法を身につけている。
		7週	生活文化、民族・宗教	衣食住の差異と社会のかかわりについて感心を高め、それらの多様性や地域性をとらえる視点や方法を身につけている。
		8週	現代世界の地域区分	地域区分の目的と方法について理解するとともに、地域区分してとらえる有用性を理解している。
	4thQ	9週	現代世界の諸地域	世界の諸地域よ多様性について地誌的に理解するとともに、地誌的にとらえる視点や方法を理解し、それらの知識を身につけている。
		10週	現代世界の諸地域	世界の諸地域よ多様性について地誌的に理解するとともに、地誌的にとらえる視点や方法を理解し、それらの知識を身につけている。
		11週	現代世界の諸地域	世界の諸地域よ多様性について地誌的に理解するとともに、地誌的にとらえる視点や方法を理解し、それらの知識を身につけている。
		12週	現代世界の諸地域	世界の諸地域よ多様性について地誌的に理解するとともに、地誌的にとらえる視点や方法を理解し、それらの知識を身につけている。
		13週	現代世界の諸地域	世界の諸地域よ多様性について地誌的に理解するとともに、地誌的にとらえる視点や方法を理解し、それらの知識を身につけている。
		14週	現代世界と日本	日本が抱える地理的な諸課題を認識し、解決の方向性を考察できる。
		15週	学年末試験	
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週		
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	0	20	0	100
基礎的能力	80	0	0	0	20	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

阿南工業高等専門学校		開講年度	平成25年度 (2013年度)		授業科目	英語 3
科目基礎情報						
科目番号	0022		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 3		
開設学科	一般教科 (平成25年度以前入学生)		対象学年	3		
開設期	通年		週時間数	3		
教科書/教材	Pole Star 他/Reading Adventure 2					
担当教員	林田 栄治					
到達目標						
1. 300語～400語程度の英文を速読し大意を把握できるようにする。 2. 本文で使われている重要語句と語彙集で取り上げた語句を習得する。 3. 本文および文法参考書で取り上げた文法事項を理解する。 4. リスニング力の向上を図る。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	教科書の読み物と語彙集で学習した重要語句を、主な派生語も含め理解できている。		教科書の読み物と語彙集で学習した重要語句をほぼ理解できている。		教科書の読み物と語彙集で学習した語句に理解できないものが多く残っている。	
評価項目2	教科書の読み物と語彙集で学習した重要語句を、主な派生語も含め理解できている。		教科書の読み物と語彙集で学習した重要語句をほぼ理解できている。		教科書の読み物と語彙集で学習した語句に理解できないものが多く残っている。	
評価項目3	教科書の読み物の英文で学んだ重要語句・重要文法事項を他の英文の理解にも応用できる。		教科書の読み物の英文を、パートごとに重要語句・重要文法事項を含めほぼ理解できた。		教科書の読み物の英文について、理解できないところが多く残っている。	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要						
授業の進め方・方法		速読テクニックを意識しながら、300語～400語程度の英文の読解演習を行います。授業や予復習に際しては、ワークブック・補助プリントを併用し、本文に使われた語彙や文法事項を確認し、英語の総合的運動能力の向上を目指します。文法・構文力は、2年次から使用している文法参考書・ワークブックを併用して補強します。語彙力は、1年次から使用している語彙集も用いて補強します。リスニング演習、英語DVDの視聴も行います。				
注意点		1. 授業には必ず英和辞典 (電子辞書可) を持参すること。 2. 教科書の語句・語彙集の語句について適宜小テスト、課題自習プリントを課す。 3. 自習課題としてe-learningを行う。 4. 提出物の提出期限は厳守すること。				
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	Polestar Lesson1～4 Reading Adventures		到達目標の1から4について、全課の読解演習、構文・表現演習、速読演習、英作文を学習します。	
		2週	Polestar Lesson1～4 Reading Adventures		到達目標の1から4について、全課の読解演習、構文・表現演習、速読演習、英作文を学習します。	
		3週	Polestar Lesson1～4 Reading Adventures		到達目標の1から4について、全課の読解演習、構文・表現演習、速読演習、英作文を学習します。	
		4週	Polestar Lesson1～4 Reading Adventures		到達目標の1から4について、全課の読解演習、構文・表現演習、速読演習、英作文を学習します。	
		5週	Polestar Lesson1～4 Reading Adventures		到達目標の1から4について、全課の読解演習、構文・表現演習、速読演習、英作文を学習します。	
		6週	Polestar Lesson1～4 Reading Adventures		到達目標の1から4について、全課の読解演習、構文・表現演習、速読演習、英作文を学習します。	
		7週	Polestar Lesson1～4 Reading Adventures		到達目標の1から4について、全課の読解演習、構文・表現演習、速読演習、英作文を学習します。	
		8週	Polestar Lesson1～4 Reading Adventures		到達目標の1から4について、全課の読解演習、構文・表現演習、速読演習、英作文を学習します。	
	2ndQ	9週	前期中間試験			
		10週	Polestar Lesson5～7 Reading Adventures Unit4～5+Review2		到達目標の1から4について、全課の読解演習、構文・表現演習、速読演習、英作文を学習します。	
		11週	Polestar Lesson5～7 Reading Adventures Unit4～5+Review2		到達目標の1から4について、全課の読解演習、構文・表現演習、速読演習、英作文を学習します。	
		12週	Polestar Lesson5～7 Reading Adventures Unit4～5+Review2		到達目標の1から4について、全課の読解演習、構文・表現演習、速読演習、英作文を学習します。	
		13週	Polestar Lesson5～7 Reading Adventures Unit4～5+Review2		到達目標の1から4について、全課の読解演習、構文・表現演習、速読演習、英作文を学習します。	
		14週	Polestar Lesson5～7 Reading Adventures Unit4～5+Review2		到達目標の1から4について、全課の読解演習、構文・表現演習、速読演習、英作文を学習します。	
		15週	Polestar Lesson5～7 Reading Adventures Unit4～5+Review2		到達目標の1から4について、全課の読解演習、構文・表現演習、速読演習、英作文を学習します。	
		16週				
後期	3rdQ	1週	Polestar Lesson8～10 Reading Adventures Unit6～7+Review3		到達目標の1から4について、全課の読解演習、構文・表現演習、速読演習、英作文、リスニングを学習します。	
		2週	ListeningbText Unit1～10		到達目標の1から4について、全課の読解演習、構文・表現演習、速読演習、英作文、リスニングを学習します。	

		3週	Polestar Lesson8~10 Reading Adventures Unit6~7+Review3	到達目標の1から4について、全課の読解演習、構文・表現演習、速読演習、英作文、リスニングを学習します。
		4週	LlsteningbText Unit1~10	到達目標の1から4について、全課の読解演習、構文・表現演習、速読演習、英作文、リスニングを学習します。
		5週	Polestar Lesson8~10 Reading Adventures Unit6~7+Review3	到達目標の1から4について、全課の読解演習、構文・表現演習、速読演習、英作文、リスニングを学習します。
		6週	LlsteningbText Unit1~10	到達目標の1から4について、全課の読解演習、構文・表現演習、速読演習、英作文、リスニングを学習します。
		7週	Polestar Lesson8~10 Reading Adventures Unit6~7+Review3	到達目標の1から4について、全課の読解演習、構文・表現演習、速読演習、英作文、リスニングを学習します。
		8週	LlsteningbText Unit1~10	到達目標の1から4について、全課の読解演習、構文・表現演習、速読演習、英作文、リスニングを学習します。
	4thQ	9週	後期中間試験	
		10週	Polestar	到達目標の1から4について、全課の構文・表現演習、速読演習、英作文、リスニングを学習します。
		11週	Polestar	到達目標の1から4について、全課の構文・表現演習、速読演習、英作文、リスニングを学習します。
		12週	Polestar	到達目標の1から4について、全課の構文・表現演習、速読演習、英作文、リスニングを学習します。
		13週	Polestar	到達目標の1から4について、全課の構文・表現演習、速読演習、英作文、リスニングを学習します。
		14週	Polestar	到達目標の1から4について、全課の構文・表現演習、速読演習、英作文、リスニングを学習します。
		15週	Polestar	到達目標の1から4について、全課の構文・表現演習、速読演習、英作文、リスニングを学習します。
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標				到達レベル	授業週
評価割合								
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計	
総合評価割合	60	0	0	15	15	10	100	
基礎的能力	60	0	0	15	15	10	100	
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0	
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0	

阿南工業高等専門学校		開講年度	平成25年度 (2013年度)		授業科目	微分積分
科目基礎情報						
科目番号	0023		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 4		
開設学科	一般教科 (平成25年度以前入学生)		対象学年	3		
開設期	通年		週時間数	4		
教科書/教材	微分積分 改訂版、矢野健太郎編、裳華房/新課程チャート式数学Ⅲ 数研練習ドリル数学Ⅲ					
担当教員	川崎 敏和					
到達目標						
1. 関数の極限の意味を理解していろいろな関数の極限計算ができる。 2. 導関数の公式および種々の計算技法を習得して微分計算ができて接線や極値が求められる。 3. 基本的な関数の不定積分と定積分の計算ができて面積や長さ計算に応用できる。 4. 偏微分の基本的な計算ができて2変数関数の極値が求められる。 5. 重積分の基本的な計算ができて体積計算に応用できる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	関数の極限の意味を理解していろいろな関数の極限計算が常時できる。		関数の極限の意味を理解していろいろな関数の極限計算ができる。		関数の極限計算ができない。	
評価項目2	導関数の公式および種々の計算技法を習得して微分計算が常時でき、接線や極値などを常時求められる。		導関数の公式および種々の計算技法を習得して微分計算ができ、接線や極値が求められる。		導関数の公式および種々の計算技法を習得せず、微分の計算やその応用ができない。	
評価項目3	積分の公式や置換積分など種々の計算技法を習得して積分計算が常時でき、面積などにも常時応用できる。		積分の公式や置換積分など種々の計算技法を習得して積分計算ができ、面積などに応用できる。		積分計算ができない。定積分を面積計算に応用できない。	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	数学は工業高専において根幹となる科目である。本科目では極限、微分法および積分法についての理解を深め、関数の解析、図形の計量に応用できる知識と技能を習得する。また偏微分、重積分の基本的な考え方を理解し、計算力を養う。					
授業の進め方・方法						
注意点	1. 授業に集中し、効率的に学習する方法を確立すること。予習復習が必須である。 2. 定期試験はもちろん重要であるが、平常の小テスト、提出物等での努力を怠らないこと。 3. 課題等提出物の提出期限を厳守すること。					
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	微分 数列の極限		いろいろな数列の極限を求めることができる (不定形の意味も理解している)。	
		2週	無限数列の和		基本的な級数の収束・発散を調べ、その和を求めることができる。	
		3週	関数の極限		いろいろな数列の極限を求めることができ、ロピタルの定理も使える。	
		4週	微分の計算		三角関数・指数関数・対数関数の導関数を求めることができる。	
		5週	逆三角関数とその微分		逆三角関数を理解している。逆三角関数の導関数を求めることができる。	
		6週	微分の応用 増減、極値、グラフ種々の微分		関数の増減表がかけ、関数の極値を求め、グラフの概形をかくことができる。	
		7週	微分の応用 増減、極値、グラフ種々の微分		高次導関数の計算、媒介変数表示された関数の微分計算ができる。	
		8週	前期中間試験			
	2ndQ	9週	不定積分		分数関数・無理関数・三角関数・指数関数・対数関数の不定積分の計算ができる。	
		10週	不定積分		分数関数・無理関数・三角関数・指数関数・対数関数の不定積分の計算ができる。	
		11週	不定積分		分数関数・無理関数・三角関数・指数関数・対数関数の不定積分の計算ができる。	
		12週	不定積分		置換積分および部分積分を用いて、不定積分を求めることができる。	
		13週	不定積分		置換積分および部分積分を用いて、不定積分を求めることができる。	
		14週	不定積分		置換積分および部分積分を用いて、不定積分を求めることができる。	
		15週	不定積分		置換積分および部分積分を用いて、不定積分を求めることができる。	
		16週				
後期	3rdQ	1週	定積分 定積分の計算技法		置換積分および部分積分を用いて、定積分を求めることができる。	
		2週	定積分 定積分の計算技法		置換積分および部分積分を用いて、定積分を求めることができる。	
		3週	定積分 定積分の計算技法		分数関数・無理関数・三角関数・指数関数・対数関数の定積分の計算ができる。	

		4週	定積分 定積分の計算技法	分数関数・無理関数・三角関数・指数関数・対数関数の定積分の計算ができる。
		5週	定積分の応用	基本的な曲線で囲まれた図形の面積、体積、曲線の長さを求めることができる。
		6週	定積分の応用	基本的な曲線で囲まれた図形の面積、体積、曲線の長さを求めることができる。
		7週	定積分の応用	基本的な曲線で囲まれた図形の面積、体積、曲線の長さを求めることができる。
		8週	後期中間試験	
	4thQ	9週	偏微分 種々の偏微分計算	2変数関数の定義域やグラフを理解し、高次偏微分まで計算できる。
		10週	偏微分 種々の偏微分計算	2変数関数の定義域やグラフを理解し、高次偏微分まで計算できる。
		11週	偏導関数の応用	偏導関数を用いて、基本的な2変数関数の極値を求めることができる。
		12週	国立高専学習到達度試験	
		13週	重積分 累次積分と重積分	2重積分の定義を理解し、2重積分を累次積分に変形し計算できる。
		14週	極座標変換	順序積分の変更や極座標変換して重積分の計算ができる。
		15週	重積分の応用	2重積分を用いて基本的な立体の体積を求めることができる。
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	40	0	0	0	10	50	100
基礎的能力	40	0	0	0	10	50	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

阿南工業高等専門学校		開講年度	平成26年度 (2014年度)		授業科目	英語総合 1
科目基礎情報						
科目番号	0031		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	一般教科（平成25年度以前入学生）		対象学年	4		
開設期	後期		週時間数	2		
教科書/教材	AFP Sience Report 成美堂					
担当教員	谷中 俊裕					
到達目標						
1. 自学自習として予習復習をすることで、着実な英語学習習慣を身に付ける。 2. 教材として用いる化学的な話題の英文報道番組を視聴して、内容を十分理解できるようになる。 3. 2の教材のスク립トに目を通して、英語での質問に答えられるようになる。 4. 教材の中で用いられている、科学技術の基本用語を含む重要語彙や重要文法事項を身に付ける。 5. 教材の中で用いられている重要語句を文単位での英作文に応用できるようになる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	予習復習に加えて、自分の興味を持ったことを深めて学習する習慣が身に付いている。		自学自習として予習復習をすることで、着実な英語学習習慣が身に付いている。		十分に予習復習ができず、着実な英語学習習慣はみにつかなかった。	
評価項目2	教材と同レベルの他の英文報道番組を視聴しても、内容を十分理解できる。		教材として使用した英文報道番組を視聴して、内容を十分理解できる。		教材として使用した英文報道番組を視聴しても、まだ内容を十分理解できない。	
評価項目3	教材と同レベルの英文報道番組のスク립トに目を通して、英語での質問に答えられる。		教材のスク립トに目を通して、英語での質問に答えられる。		教材のスク립トに目を通して、英語での質問に十分答えられない。	
評価項目4	教材の中で用いられている重要語彙や重要文法事項を、関連事項を含めて身に付けている。		教材の中で用いられている重要語彙や重要文法事項を身に付けている。		教材の中で用いられている重要語彙や重要文法事項を十分理解できていない。	
評価項目5	教材の中で用いられている重要語句を、教材中の用例から離れた英作文にも応用できる。		教材の中で用いられている重要語句を、教材中の用例に似た構造の英作文に応用できる。		教材の中で用いられている重要語句を、教材中の用例に似た構造の英作文にも応用できない。	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	科学的な話題を取り扱った英語報道番組の視聴を通じて、科学技術の基本用語を含む英文の聴解力を高め、登場した語彙や文法の重要事項を習得する。また、視聴覚教材のスク립トに改めて目を通し、英語での質問に答えることで英文読解力を高める。さらに、習得した、語彙を用いて作文演習も行い、英作文力を高める。					
授業の進め方・方法						
注意点	1. 授業には必ず辞書（電子辞書可）を持参すること。 2. オリエンテーション時に説明する方法で、自学自習課題として予習復習を十分行うこと。 3. 【重要】自学自習用に大学ノート（B5）を用意すること。ルーズリーフは認めません。 4. 教材のDVDを自分でも視聴でき、ネット上の演習問題にも自分でアクセスできる環境を整えておくこと。					
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	オリエンテーション		学習方法についての理解	
		2週	Unit1～10		到達目標の1～5について、全Unitを題材に学習します。	
		3週	Unit1～10		到達目標の1～5について、全Unitを題材に学習します。	
		4週	Unit1～10		到達目標の1～5について、全Unitを題材に学習します。	
		5週	Unit1～10		到達目標の1～5について、全Unitを題材に学習します。	
		6週	Unit1～10		到達目標の1～5について、全Unitを題材に学習します。	
		7週	Unit1～10		到達目標の1～5について、全Unitを題材に学習します。	
		8週	後期中間試験			
	4thQ	9週	Unit11～20		到達目標の1～5について、全Unitを題材に学習します。	
		10週	Unit11～20		到達目標の1～5について、全Unitを題材に学習します。	
		11週	Unit11～20		到達目標の1～5について、全Unitを題材に学習します。	
		12週	Unit11～20		到達目標の1～5について、全Unitを題材に学習します。	
		13週	Unit11～20		到達目標の1～5について、全Unitを題材に学習します。	
		14週	Unit11～20		到達目標の1～5について、全Unitを題材に学習します。	
		15週	Unit11～20		到達目標の1～5について、全Unitを題材に学習します。	
		16週	学年末試験			
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標						

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標				到達レベル	授業週
評価割合								
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	小テスト	合計
総合評価割合	70	0	0	0	20	0	10	100
基礎的能力	70	0	0	0	20	0	10	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0	0

阿南工業高等専門学校		開講年度	平成26年度 (2014年度)		授業科目	法学
科目基礎情報						
科目番号	0032		科目区分	一般 / 選択		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	一般教科（平成25年度以前入学生）		対象学年	4		
開設期	通年		週時間数	2		
教科書/教材	アクセス法学（嵯峨野書院）					
担当教員	今田 浩之					
到達目標						
1. 法規範の特質、法分類、裁判手続の基本について説明できる。 2. 憲法の基本的人権論、司法審査理論について説明できる。 3. 民法、刑法などの原理・制度・運用について説明できる。						
ルーブリック						
		理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1		法規範の特質分析や法分類の意義、裁判手続における立証責任の意義について説明できる。	法規範の特質、法分類、裁判手続の基本について説明できる。		法規範の特質、法分類、裁判手続の基本について説明できない。	
評価項目2		憲法の基本的人権論に関する判例の意義と課題を説明できる。	憲法の基本的人権論、司法審査理論について説明できる。		憲法の基本的人権論、司法審査理論について説明できない。	
評価項目3		民法、刑法などの原理・制度・運用について説明できる。	民法、刑法などの原理・制度について説明できる。		民法、刑法などの原理・制度について説明できない。	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	この科目では、具体的な法文や訴訟判例を素材に、現行法の制度・運用について検討し、各自が法的思考能力を身に付けることを目標とする。					
授業の進め方・方法	授業では、まず、「法学基礎論」で法学の基礎的知識や方法論を学び、次に「法学各論」で各法分野につき、制度や運用に関する具体的な法文や訴訟判例の検討を通じて、法的思考方法を習得する。					
注意点	日常的に、様々な現実社会の問題について、法的観点から考えてみるようにして下さい。 新しい立法や裁判の動向、権利や自由に関する時事的な話題にも積極的に目を向けましょう。					
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	法とは何か		社会規範としての法の特質、法の諸分類について説明できる。	
		2週	法とは何か		社会規範としての法の特質、法の諸分類について説明できる。	
		3週	法の解釈		法の解釈技術について説明できる。	
		4週	法の解釈		法の解釈技術について説明できる。	
		5週	裁判の構造		裁判手続の基本的構造、立証責任について説明できる。	
		6週	裁判の構造		裁判手続の基本的構造、立証責任について説明できる。	
		7週	裁判の構造		裁判手続の基本的構造、立証責任について説明できる。	
		8週	憲法の基本的人権保障		基本的人権、司法審査制、二重の基準論について説明できる。	
	2ndQ	9週	憲法の基本的人権保障		基本的人権、司法審査制、二重の基準論について説明できる。	
		10週	憲法の基本的人権保障		基本的人権、司法審査制、二重の基準論について説明できる。	
		11週	憲法の基本的人権保障		基本的人権、司法審査制、二重の基準論について説明できる。	
		12週	民法		債権、契約、不法行為、物権などについて説明できる。	
		13週	民法		債権、契約、不法行為、物権などについて説明できる。	
		14週	民法		債権、契約、不法行為、物権などについて説明できる。	
		15週	民法		債権、契約、不法行為、物権などについて説明できる。	
		16週				
後期	3rdQ	1週	民法		債権、契約、不法行為、物権などについて説明できる。	
		2週	消費者保護法		特定商取引法、消費者契約法などについて説明できる。	
		3週	消費者保護法		特定商取引法、消費者契約法などについて説明できる。	
		4週	消費者保護法		特定商取引法、消費者契約法などについて説明できる。	
		5週	製造物責任法		製造物、製造業者、欠陥責任などについて説明できる。	
		6週	製造物責任法		製造物、製造業者、欠陥責任などについて説明できる。	

		7週	製造物責任法	製造物、製造業者、欠陥責任などについて説明できる。
		8週	刑法	罪刑法定主義、犯罪成立要件、刑罰などについて説明できる。
	4thQ	9週	刑法	罪刑法定主義、犯罪成立要件、刑罰などについて説明できる。
		10週	刑法	罪刑法定主義、犯罪成立要件、刑罰などについて説明できる。
		11週	刑事訴訟法	適正手続原則、刑事手続の全体構造などについて説明できる。
		12週	刑事訴訟法	適正手続原則、刑事手続の全体構造などについて説明できる。
		13週	労働法	労働基準法、男女雇用機会均等法などについて説明できる。
		14週	労働法	労働基準法、男女雇用機会均等法などについて説明できる。
		15週		
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標				到達レベル	授業週
評価割合								
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計	
総合評価割合	70	0	0	0	30	0	100	
基礎的能力	60	0	0	0	20	0	80	
専門的能力	10	0	0	0	10	0	20	
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0	

阿南工業高等専門学校		開講年度	平成26年度 (2014年度)		授業科目	哲学
科目基礎情報						
科目番号	0033			科目区分	一般 / 選択	
授業形態	授業			単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	一般教科 (平成25年度以前入学生)			対象学年	4	
開設期	通年			週時間数	2	
教科書/教材	使用しません。適宜、プリント資料を配付します/高等学校倫理 (第一学習社)					
担当教員	藤居 岳人					
到達目標						
1. 哲学上の諸問題に関する基礎的な知識について説明できる。 2. 議論用資料作成を通して、自分の主張を明確に文章にまとめることができる。 3. 議論を通して、周囲の意見を認めることができる。						
ルーブリック						
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1		哲学上の諸問題に関する基礎的な知識について、講義内容の詳細を踏まえて、説明できる。		哲学上の諸問題に関する基礎的な知識について、講義内容の概略を踏まえて、説明できる。		哲学上の諸問題に関する基礎的な知識について説明できない。
評価項目2		論理に矛盾がなく、十分な分量で自分の主張を議論用資料として文章にまとめることができる。		十分な分量で自分の主張を議論用資料として文章にまとめることができる。		論理に矛盾があり、自分の主張が明確には文章にまとめられていない。
評価項目3		議論に主体的にかかわり、周囲の意見を尊重できる。		議論にかかわり、周囲の意見を尊重できる。		議論へのかかわりが不十分で、周囲の意見の尊重も不十分である。
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要		自分自身がもつさまざまな疑問に対して、徹底的に考え抜くことが哲学における基本的態度です。「哲学する」とはどのようなことかについて、西洋と日本の思想を取り上げつつ、講義してゆきます。そして、哲学上の諸問題に関する講義と議論用資料作成を・議論を通して、①それぞれの学生が「哲学する」ことができるように動機づけして、国際人として通用する柔軟な思考を養成します。②それぞれの学生が多様な価値観を認めつつ、自己の確立ができるようにします。				
授業の進め方・方法						
注意点		議論のための資料として、適宜、小レポートを提出してもらう予定です。レポートはUSBメモリー・メール等で受けつけるので、その心づもりをしておいてください。議論は年4回を予定しています。また、講義で述べたことについて定期試験で確認する方針なので、「講義をしっかりと聴く」ことを心がけてほしいと思います。				
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	「哲学」とは?		「哲学」と「思想」との相違について、説明できる。	
		2週	「哲学」とは?		「哲学」と「思想」との相違について、説明できる。	
		3週	「哲学」「philosophia」の語		「哲学」の語の由来・「philosophia」の語の由来について、説明できる。	
		4週	「哲学」「philosophia」の語		「philosophia」の語の由来について、説明できる。	
		5週	「哲学」「philosophia」の語		「philosophia」の語の由来について、説明できる。	
		6週	「哲学」「philosophia」の語		「philosophia」の語の由来について、説明できる。	
		7週	議論		資料作成を通して自分の意見をまとめ、議論を通して周囲の意見を認められる。	
		8週	西洋における哲学上の諸問題 1		デカルト・ロック等を中心にした主観客観の一致問題について、説明できる。	
	2ndQ	9週	西洋における哲学上の諸問題 1		デカルト・ロック等を中心にした主観客観の一致問題について、説明できる。	
		10週	西洋における哲学上の諸問題 1		デカルト・ロック等を中心にした主観客観の一致問題について、説明できる。	
		11週	西洋における哲学上の諸問題 1		デカルト・ロック等を中心にした主観客観の一致問題について、説明できる。	
		12週	西洋における哲学上の諸問題 2		カント・ヘーゲル等を中心にした主観客観の一致問題について、説明できる。	
		13週	西洋における哲学上の諸問題 2		カント・ヘーゲル等を中心にした主観客観の一致問題について、説明できる。	
		14週	西洋における哲学上の諸問題 2		カント・ヘーゲル等を中心にした主観客観の一致問題について、説明できる。	
		15週	議論		資料作成を通して自分の意見をまとめ、議論を通して周囲の意見を認められる。	
		16週				
後期	3rdQ	1週	日本における哲学上の諸問題 1		『古事記』を中心にした古代人の思想について、説明できる。	
		2週	日本における哲学上の諸問題 1		『古事記』を中心にした古代人の思想について、説明できる。	
		3週	日本における哲学上の諸問題 1		『古事記』を中心にした古代人の思想について、説明できる。	
		4週	日本における哲学上の諸問題 2		言霊の思想を中心にした古代人の思想について、説明できる。	
		5週	日本における哲学上の諸問題 2		言霊の思想を中心にした古代人の思想について、説明できる。	

		6週	議論	資料作成を通して自分の意見をまとめ、議論を通して周囲の意見を認められる。
		7週	日本における哲学上の諸問題 3	禅の思想・道元を中心に中世人の思想について、説明できる。
		8週	日本における哲学上の諸問題 3	禅の思想・道元を中心に中世人の思想について、説明できる。
	4thQ	9週	日本における哲学上の諸問題 3	禅の思想・道元を中心に中世人の思想について、説明できる。
		10週	日本における哲学上の諸問題 3	禅の思想・道元を中心に中世人の思想について、説明できる。
		11週	日本における哲学上の諸問題 4	世阿弥等を中心に中世人の思想について、説明できる。
		12週	日本における哲学上の諸問題 4	世阿弥等を中心に中世人の思想について、説明できる。
		13週	日本における哲学上の諸問題 4	世阿弥等を中心に中世人の思想について、説明できる。
		14週	議論	資料作成を通して自分の意見をまとめ、議論を通して周囲の意見を認められる。
		15週		
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	60	0	0	0	32	8	100
基礎的能力	60	0	0	0	32	8	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

阿南工業高等専門学校		開講年度	平成26年度 (2014年度)		授業科目	体育
科目基礎情報						
科目番号	0034		科目区分	一般 / 選択		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	一般教科（平成25年度以前入学生）		対象学年	4		
開設期	後期		週時間数	2		
教科書/教材	なし					
担当教員	新井 修					
到達目標						
1. 互いに協力し合い、主体的に練習やゲームの方法を工夫して運動を実践できる。 2. 自己の能力に応じて、運動の技能や体力を身につけることができる。 3. 運動・活動中は安全に留意して行動できる。						
ルーブリック						
		理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1		自己及び、仲間の取るべき行動を適切に判断し、主体的に練習やゲームを工夫し、活動を円滑に実践できる。	自己の取るべき行動を判断し、他人と互いに協力しながら練習やゲームを工夫し、活動に参加できる。	自己の取るべき行動が判断できない。または他人と協力する姿勢がみられず、活動に参加できない。		
評価項目2		自己の能力を理解し、適切なプログラムを作成して運動の技能や体力を身につけることができる。	教員が指示したプログラムに従い、運動の技能や体力を身につけることができる。	教員の指示に従わず、運動の技能や体力を身につけることができない。		
評価項目3		活動中、自己のみならず仲間の安全に留意し、必要に応じて危険を回避する行動を取ることができる。	活動中、自己の安全に留意し、必要に応じて危険を回避する行動を取ることができる。	活動中、安全に留意して行動できない。		
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	運動を行うことにより、運動することの大切さや喜びの実感、運動に必要な技能の習得及び、体力の向上を図る。あわせて自ら意欲的に運動に取り組む姿勢や、生涯に渡って運動に親しむ態度を育てる。特に本授業では、生涯スポーツの観点から、自己の能力や興味関心に応じて種目を選択させ、運動を安全かつ楽しみながら実践できるよう、工夫・協力しながら学習することに重点を置く。					
授業の進め方・方法						
注意点	普段から健康管理を心がけ、風などにより授業を見学・欠席することのないよう気をつけて下さい。 学校指定の体操服で活動して下さい。 天候等、やむを得ない事情により、実施種目は変更されることがあります。 後期の体育大会は授業時数に含まれますので、欠席しないようにして下さい。					
授業計画						
		週	授業内容	週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	種目選択と実践 ※下記より種目を選択する。 但し、希望人数によっては実施できない場合がある。 1) バスケットボール 2) バレーボール 3) バドミントン 4) 卓球 5) テニス 6) フットサル 7) サッカー 8) ソフトボール	各種目のルールを理解し説明できる。 各種目の基本的な個人技能を習得する。 互いに協力し、ゲームを実践できる。		
		2週	実践	各種目のルールを理解し説明できる。 各種目の基本的な個人技能を習得する。 互いに協力し、ゲームを実践できる。		
		3週	実践	各種目のルールを理解し説明できる。 各種目の基本的な個人技能を習得する。 互いに協力し、ゲームを実践できる。		
		4週	実践	各種目のルールを理解し説明できる。 各種目の基本的な個人技能を習得する。 互いに協力し、ゲームを実践できる。		
		5週	実践	各種目のルールを理解し説明できる。 各種目の基本的な個人技能を習得する。 互いに協力し、ゲームを実践できる。		
		6週	実践	各種目のルールを理解し説明できる。 各種目の基本的な個人技能を習得する。 互いに協力し、ゲームを実践できる。		
		7週	実践	各種目のルールを理解し説明できる。 各種目の基本的な個人技能を習得する。 互いに協力し、ゲームを実践できる。		
		8週	実践	各種目のルールを理解し説明できる。 各種目の基本的な個人技能を習得する。 互いに協力し、ゲームを実践できる。		
	4thQ	9週	実践	各種目のルールを理解し説明できる。 各種目の基本的な個人技能を習得する。 互いに協力し、ゲームを実践できる。		
		10週	実践	各種目のルールを理解し説明できる。 各種目の基本的な個人技能を習得する。 互いに協力し、ゲームを実践できる。		

		11週	実践	各種目のルールを理解し説明できる。 各種目の基本的な個人技能を習得する。 互いに協力し、ゲームを実践できる。
		12週	実践	各種目のルールを理解し説明できる。 各種目の基本的な個人技能を習得する。 互いに協力し、ゲームを実践できる。
		13週	体育大会	参加する種目で、仲間と協力してゲームを実践できる。
		14週	体育大会	参加する種目で、仲間と協力してゲームを実践できる。
		15週	体育大会	参加する種目で、仲間と協力してゲームを実践できる。
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	0	0	100	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	100	100

阿南工業高等専門学校		開講年度	平成26年度 (2014年度)		授業科目	化学 3	
科目基礎情報							
科目番号	0035			科目区分	一般 / 選択		
授業形態	授業			単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	一般教科 (平成25年度以前入学生)			対象学年	4		
開設期	後期			週時間数	2		
教科書/教材	大学への橋渡し 有機化学 (化学同人)						
担当教員							
到達目標							
1. 分子軌道から共有結合を説明できる。 2. 熱化学反応式から、ヘスの法則を用いて反応熱を計算をすることができる。 3. 基本的な有機化合物の性質を、官能基の特性から説明できる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	分子軌道から共有結合を理解し、配意結合など基礎的な用語を説明できる。			分子軌道から共有結合を理解し、説明できる。		分子軌道と共有結合の関連性を説明できない。	
評価項目2	熱化学反応式から反応熱を計算でき、活性化エネルギーや結合エネルギーを説明できる。			熱化学反応式から反応熱を計算をすることができる。		反応熱を計算をすることができない。	
評価項目3	基本的な有機化合物の性質と反応性の違いを、官能基の特性から説明できる。			基本的な有機化合物の性質を、官能基の特性から説明できる。		有機化合物の性質と官能基の特性の関連性を理解できない。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	化学とは物質の変化の裏にある基本的な原理・法則を、実験や理論を通して探求していく学問である。それらの成果は様々な工業製品を通して現在の物質文明を支えている。						
授業の進め方・方法	本講義は化学に関する基礎的な学習をふまえ、技術者として必要な化学的概念を理解することを目的としている。						
注意点	1、2年生で学習した化学の内容を必ず復習し、本講義を受講して下さい。自学自習の課題は全部で15回出しますが、必ず自分で解決して下さい。課題には1、2年生の化学の範囲も含めます。						
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	原子の構造		質量数		
		2週	原子の構造		電子配置		
		3週	化学結合		分子軌道		
		4週	化学結合		共有結合		
		5週	化学結合		共有結合		
		6週	化学反応		化学反応式		
		7週	化学反応		熱化学方程式		
		8週	化学反応		化学平衡		
	4thQ	9週	中間試験				
		10週	官能基と化合物		有機化合物		
		11週	官能基と化合物		炭化水素		
		12週	官能基と化合物		アルコール、フェノール、エーテル		
		13週	官能基と化合物		カルボニル化合物		
		14週	官能基と化合物		カルボン酸とその誘導体		
		15週	官能基と化合物		含窒素化合物		
		16週	期末試験				
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	0	0	0	30	0	100
基礎的能力	40	0	0	0	10	0	50
専門的能力	30	0	0	0	10	0	40
分野横断的能力	0	0	0	0	10	0	10

阿南工業高等専門学校		開講年度	平成26年度（2014年度）		授業科目	英語の語彙・文法（1）		
科目基礎情報								
科目番号	0036			科目区分	一般 / 選択			
授業形態	授業			単位の種別と単位数	履修単位: 1			
開設学科	一般教科（平成25年度以前入学生）			対象学年	4			
開設期	前期			週時間数	2			
教科書/教材	PerfectPracticeTOEIC/Keystone-Grammar-based							
担当教員	林田 栄治							
到達目標								
1. Students are required to score 375 or over in the TOEIC test. 2. Students are expected to understand listening maetrialala and BBC Short Clips on DVD. 3. You can identify what you see in the photo. 4. You can choose the response that best answer the question. 5. You can interpret the information in advertisements, forms, reports, correspondence, tables, graphes.etc								
ルーブリック								
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	To score over 500 in the TOEIC test.			To score 430 in the TOEIC test.		To score 300 under. No points.		
評価項目2	To well understand listening maetrialala and BBC Short Clips on DVD.			To understand listening maetrialala and BBC Short Clips on DVD.		Not to understand listening maetrialala and BBC Short Clips on DVD.		
評価項目3	To well identify what you see in the photo.			To identify what you see in the photo.		Not to identify what you see in the photo.		
評価項目4	To exactly the response that best answer the question.			To choose the response that best answer the question.		Not to choose the response that best answer the question.		
評価項目5	To well interpret information in advertisements, forms, reports, correspondence, tables.			To interpret the information in advertisements, forms, reports, correspondence, tables, graphse.		Not to interpret the information in advertisements, forms, reports, correspondence,tables.		
学科の到達目標項目との関係								
教育方法等								
概要	This class is designed to help students prepare to take the TOEIC test. Students do best when they are familiar with the test format. A through understanding of test diretions and task requirements allow them to focus fully on demonstrating their language proficiency. They develop the test-taking and language skills that they will need do well on the Listening and Reading test.							
授業の進め方・方法								
注意点	You will be actively engaged in class activities and tasks. All assignments will be completed in full and turned in on time.							
授業計画								
		週	授業内容		週ごとの到達目標			
前期	1stQ	1週	Photographs		To choose the sentence that closeley matches what you see.			
		2週	Photographs		To choose the sentence that closeley matches what you see.			
		3週	Question-response		To choose the response that best answers the question.			
		4週	Question-response		To choose the response that best answers the question.			
		5週	Short conversation		To choose the option that best answer the question.			
		6週	Short conversation		To choose the option that best answer the question.			
		7週	Mid Term					
		8週	Short talks		To determine the location, the speaker, the time, the event, or a reason.			
	2ndQ	9週	Short talks		To determine the location, the speaker, the time, the event, or a reason.			
		10週	Imcomplete sentence		To choose the best word or phrase.			
		11週	Imcomplete sentence		To choose the best word or phrase.			
		12週	Imcomplete text		To select the best answer to complete the text.			
		13週	Imcomplete text		To select the best answer to complete the text.			
		14週	Reading		To answer the question based on the information in the passage.			
		15週	Reading		To answer the question based on the information in the passage.			
		16週						
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標								
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標				到達レベル	授業週
評価割合								
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリ オ	その他	小テスト	合計

総合評価割合	60	0	0	0	15	10	15	100
基礎的能力	60	0	0	0	15	10	15	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0	0

阿南工業高等専門学校		開講年度	平成26年度 (2014年度)		授業科目	英語の語彙・文法（2）	
科目基礎情報							
科目番号	0037		科目区分		一般 / 選択		
授業形態	授業		単位の種別と単位数		履修単位: 1		
開設学科	一般教科（平成25年度以前入学生）		対象学年		4		
開設期	後期		週時間数		2		
教科書/教材	Takuya Ishii 他 Overall Skills for the TOEIC Test 成美道、秋葉利治他 対話文で覚える英単語・熟語ダイアログ1200 旺文社/TOEIC テスト新公式問題集vol.1～3						
担当教員	勝藤 和子						
到達目標							
1. TOEICの出題傾向を把握し、出題形式に慣れ、各パートの問題形式に対応することができる。 2. 教科書や語彙集で取り上げた語彙・構文、決まり文句の60%以上を記憶し、正しく運用できる。 3. TOEICスコア 325点～400点を取得できる。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1		TOEICの出題傾向を把握し、出題形式に慣れ、各パートの問題形式に精通し、適切な対応することができる。		TOEICの出題傾向を把握し、出題形式に慣れ、各パートの問題形式に対応することができる。		TOEICの出題傾向を把握し、出題形式に不慣れで、各パートの問題形式に対応することができない。	
評価項目2		教科書や語彙集で取り上げた語彙・構文、決まり文句の90%以上を記憶し、正しく運用できる。		教科書や語彙集で取り上げた語彙・構文、決まり文句の60%以上を記憶し、ほぼ正しく運用できる。		教科書や語彙集で取り上げた語彙・構文、決まり文句の記憶が60%未満で、運用力が低い。	
評価項目3		TOEICスコア 400点以上を取得できる。		TOEICスコア 325点～399点を取得できる。		TOEICスコア 325点以上を満たすことができない。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要		TOEIC実戦形式の問題演習を通して語彙力、文法力、聴解力、読解力を総合的に向上させ、325点～400点のTOEICスコアを達成する。					
授業の進め方・方法		ダイアログ式の単語・熟語集を用いて、単語や熟語を記憶し、適切に運用する能力を習得する。					
注意点		1. 必ず予習をして授業に臨むこと。授業には辞書を持参すること。 2. 英単語・ダイアログ1200の小テストを適宜行うので日頃から計画的に取り組んでおくこと。 3. 【重要】後学期中にTOEIC IPテストを必ず受験すること。（325点未満は評価割合の「態度」の得点が与えられない。）					
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	Unit1～Unit7		TOEICの出題傾向を把握し、出題形式に慣れ、各パートの問題形式に対応することができる。 教科書や語彙集のレストラン、ホテル、ショッピング、金融、病院、空港、道路、交通で用いられる語彙・構文、決まり文句の60%以上を記憶し、ほぼ正しく運用できる。		
		2週	Unit1～Unit7		TOEICの出題傾向を把握し、出題形式に慣れ、各パートの問題形式に対応することができる。 教科書や語彙集のレストラン、ホテル、ショッピング、金融、病院、空港、道路、交通で用いられる語彙・構文、決まり文句の60%以上を記憶し、ほぼ正しく運用できる。		
		3週	Unit1～Unit7		TOEICの出題傾向を把握し、出題形式に慣れ、各パートの問題形式に対応することができる。 教科書や語彙集のレストラン、ホテル、ショッピング、金融、病院、空港、道路、交通で用いられる語彙・構文、決まり文句の60%以上を記憶し、ほぼ正しく運用できる。		
		4週	Unit1～Unit7		TOEICの出題傾向を把握し、出題形式に慣れ、各パートの問題形式に対応することができる。 教科書や語彙集のレストラン、ホテル、ショッピング、金融、病院、空港、道路、交通で用いられる語彙・構文、決まり文句の60%以上を記憶し、ほぼ正しく運用できる。		
		5週	Unit1～Unit7		TOEICの出題傾向を把握し、出題形式に慣れ、各パートの問題形式に対応することができる。 教科書や語彙集のレストラン、ホテル、ショッピング、金融、病院、空港、道路、交通で用いられる語彙・構文、決まり文句の60%以上を記憶し、ほぼ正しく運用できる。		
		6週	Unit1～Unit7		TOEICの出題傾向を把握し、出題形式に慣れ、各パートの問題形式に対応することができる。 教科書や語彙集のレストラン、ホテル、ショッピング、金融、病院、空港、道路、交通で用いられる語彙・構文、決まり文句の60%以上を記憶し、ほぼ正しく運用できる。		
		7週	Unit1～Unit7		TOEICの出題傾向を把握し、出題形式に慣れ、各パートの問題形式に対応することができる。 教科書や語彙集のレストラン、ホテル、ショッピング、金融、病院、空港、道路、交通で用いられる語彙・構文、決まり文句の60%以上を記憶し、ほぼ正しく運用できる。		
		8週	中間テスト				

4thQ	9週	Unit8～Unit14	引き続きTOEICの出題傾向を把握し、出題形式に慣れ、各パートの問題形式に対応することができる。 教科書や語彙集の観光、日常業務、職場、スポーツ、コンピュータ、人事、雇用、研修で用いられる語彙・構文、決まり文句の60%以上を記憶し、ほぼ正しく運用できる。
	10週	Unit8～Unit14	引き続きTOEICの出題傾向を把握し、出題形式に慣れ、各パートの問題形式に対応することができる。 教科書や語彙集の観光、日常業務、職場、スポーツ、コンピュータ、人事、雇用、研修で用いられる語彙・構文、決まり文句の60%以上を記憶し、ほぼ正しく運用できる。
	11週	Unit8～Unit14	引き続きTOEICの出題傾向を把握し、出題形式に慣れ、各パートの問題形式に対応することができる。 教科書や語彙集の観光、日常業務、職場、スポーツ、コンピュータ、人事、雇用、研修で用いられる語彙・構文、決まり文句の60%以上を記憶し、ほぼ正しく運用できる。
	12週	Unit8～Unit14	引き続きTOEICの出題傾向を把握し、出題形式に慣れ、各パートの問題形式に対応することができる。 教科書や語彙集の観光、日常業務、職場、スポーツ、コンピュータ、人事、雇用、研修で用いられる語彙・構文、決まり文句の60%以上を記憶し、ほぼ正しく運用できる。
	13週	Unit8～Unit14	引き続きTOEICの出題傾向を把握し、出題形式に慣れ、各パートの問題形式に対応することができる。 教科書や語彙集の観光、日常業務、職場、スポーツ、コンピュータ、人事、雇用、研修で用いられる語彙・構文、決まり文句の60%以上を記憶し、ほぼ正しく運用できる。
	14週	Unit8～Unit14	引き続きTOEICの出題傾向を把握し、出題形式に慣れ、各パートの問題形式に対応することができる。 教科書や語彙集の観光、日常業務、職場、スポーツ、コンピュータ、人事、雇用、研修で用いられる語彙・構文、決まり文句の60%以上を記憶し、ほぼ正しく運用できる。
	15週	Unit8～Unit14	引き続きTOEICの出題傾向を把握し、出題形式に慣れ、各パートの問題形式に対応することができる。 教科書や語彙集の観光、日常業務、職場、スポーツ、コンピュータ、人事、雇用、研修で用いられる語彙・構文、決まり文句の60%以上を記憶し、ほぼ正しく運用できる。
	16週	期末テスト	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	60	0	0	15	0	25	100
基礎的能力	60	0	0	15	0	25	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

阿南工業高等専門学校		開講年度	平成27年度 (2015年度)		授業科目	経済学	
科目基礎情報							
科目番号	0038		科目区分	一般 / 選択			
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2			
開設学科	一般教科 (平成25年度以前入学生)		対象学年	5			
開設期	後期		週時間数	2			
教科書/教材	教養の政治学・経済学(学術図書出版社)/入門経済学[第4版](日本評論社)						
担当教員	今田 浩之						
到達目標							
1. 経済体制や価格機構について説明できる。 2. 国民経済計算や景気循環について説明できる。 3. 金融政策や財政政策について説明できる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
到達目標1	経済体制の問題点や価格機構の限界について説明できる。		経済体制や価格機構について基本的な説明ができる。		経済体制や価格機構について基本的な説明ができない。		
到達目標2	国民経済計算や景気循環について経済資料に即した説明ができる。		国民経済計算や景気循環について基本的な説明ができる。		国民経済計算や景気循環について基本的な説明ができない。		
到達目標3	金融政策や財政政策について経済資料に即した説明ができる。		金融政策や財政政策について基本的な説明ができる。		金融政策や財政政策について基本的な説明ができない。		
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	この科目では、経済現象に関わる基本的な概念や理論、政府などの経済政策を包括的に学習する。						
授業の進め方・方法	授業では、まず、経済学の基礎概念や理論を学ぶ。その上で、主にマクロ経済学の基本的論点について検討し、その概要と課題について説明できる能力を身に付ける。						
注意点	日常的に、家計・企業の経済問題や政府などの経済政策に主体的に関心を持つようにしてください。時事的な話題や自分の身の回りの経済現象に目を向け、授業との関連づけをしましょう。						
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	「経済理論」「経済体制」		経済現象と経済理論、資本主義・社会主義経済体制について説明できる。		
		2週	「経済理論」「経済体制」		経済現象と経済理論、資本主義・社会主義経済体制について説明できる。		
		3週	家計・企業		消費と貯蓄、生産と分業などについて説明できる。		
		4週	価格機構		市場と価格、均衡、独占と寡占、市場の限界などについて説明できる。		
		5週	価格機構		市場と価格、均衡、独占と寡占、市場の限界などについて説明できる。		
		6週	マーケティング戦略		経済環境分析、標的市場選定について説明できる。		
		7週	マーケティング戦略		経済環境分析、標的市場選定について説明できる。		
		8週	ブランド戦略		ブランドの分類、機能、評価基準、導入戦略について説明できる。		
	4thQ	9週	国民所得		国民経済計算、国富について説明できる。		
		10週	景気循環		景気循環、景気動向指数について説明できる。		
		11週	景気循環		景気循環、景気動向指数について説明できる。		
		12週	金融政策		金融市場、金融政策について説明できる。		
		13週	財政政策		財政の機能、予算類型、国債問題、租税体系について説明できる。		
		14週	財政政策		財政の機能、予算類型、国債問題、租税体系について説明できる。		
		15週	後学期末試験				
		16週	答案返却時間				
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	定期試験	小テスト	レポート・課題	発表	その他	合計	
総合評価割合	65	0	35	0	0	100	
基礎的能力	55	0	25	0	0	80	
専門的能力	10	0	10	0	0	20	
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	

阿南工業高等専門学校		開講年度	平成27年度 (2015年度)		授業科目	バイオテクノロジー		
科目基礎情報								
科目番号	0039			科目区分	一般 / 選択			
授業形態	授業			単位の種別と単位数	学修単位: 2			
開設学科	一般教科 (平成25年度以前入学生)			対象学年	5			
開設期	後期			週時間数	2			
教科書/教材	スタンダード生化学(裳華房)/図書館の化学関連の本							
担当教員	一森 勇人							
到達目標								
1.生物機能についての化学的概念を理解できる。 2.環境問題についての化学的概念を理解できる。 3.生化学分析手法を理解できる。								
ルーブリック								
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
到達目標1	生物機能についての化学的概念を理解して説明でき、実際の問題に適用できる。			生物機能についての化学的概念を理解できる。		生物機能についての化学的概念を理解できない。		
到達目標2	環境問題についての化学的概念を理解して説明でき、実際の問題に適用できる。			環境機能についての化学的概念を理解できる。		環境機能についての化学的概念を理解できない。		
到達目標3	生化学分析手法の原理を理解して説明でき、実際の問題に適用できる。			生化学分析手法の原理を理解できる。		生化学分析手法の原理を理解できない。		
学科の到達目標項目との関係								
教育方法等								
概要	バイオテクノロジーは生物機能の化学的解明を行い、その成果を人類の生存や人間生活の向上を目指していくための学問である。本講義では、生物学の基礎的知識を身につけ、エンジニアとして必要な地球環境を考える力をつけることを目的とする。							
授業の進め方・方法								
注意点	今までに学習した化学の内容を必ず復習し、理解してから本講義を受講すること。 授業には計算機(電卓)を持ってくること。わからないことはそのままにしないで積極的に質問すること。自学自習の課題は全部で15回出すが、必ず自分で解決すること。							
授業計画								
		週	授業内容			週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	生命体の構造とメカニズム			(1)生命体の構成要素		
		2週	生命体の構造とメカニズム			(2)エネルギー代謝のメカニズム		
		3週	生命体の構造とメカニズム			(3)脂質の役割		
		4週	生命体の構造とメカニズム			(4)生体膜の機構		
		5週	生命体の構造とメカニズム			(5)炭水化物の役割		
		6週	生命体の構造とメカニズム			(6)アミノ酸 蛋白質の役割		
		7週	生命体の構造とメカニズム			(7)運動とエネルギー代謝		
		8週	生命体の構造とメカニズム			(7)運動とエネルギー代謝		
	4thQ	9週	中間試験					
		10週	環境			(1)温度、圧力の影響		
		11週	環境			(2)界面活性剤の機能と環境への影響		
		12週	環境			(3)大気汚染 (4)水質汚濁		
		13週	化学分析手法			(1)エネルギー消費量		
		14週	化学分析手法			(2)せっけん、合成洗剤		
		15週	化学分析手法			(3)COD		
		16週	期末試験 答案返却時間					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標								
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標				到達レベル	授業週
評価割合								
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	小テスト	合計
総合評価割合	50	0	0	0	50	0	0	100
基礎的能力	30	0	0	0	10	0	0	40
専門的能力	10	0	0	0	30	0	0	40
分野横断的能力	10	0	0	0	10	0	0	20

阿南工業高等専門学校		開講年度	平成27年度 (2015年度)		授業科目	体育	
科目基礎情報							
科目番号	0040			科目区分	一般 / 選択		
授業形態	授業			単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	一般教科 (平成25年度以前入学生)			対象学年	5		
開設期	前期			週時間数	2		
教科書/教材							
担当教員	新井 修						
到達目標							
1.互いに協力し合い、主体的に練習やゲームの方法を工夫して運動を実践できる。 2.自己の能力に応じて、運動の技能や体力を身につけることができる。 3.運動・活動中は安全に留意して行動できる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
到達目標1	自己及び、仲間の取るべき行動を適切に判断し、主体的に練習やゲームを工夫し、活動を円滑に実践できる。			自己の取るべき行動を判断し、他人と互いに協力しながら練習やゲームを工夫し、活動に参加できる。		自己の取るべき行動が判断できない。または他人と協力する姿勢が見られず、活動に参加できない。	
到達目標2	自己の能力を理解し、適切なプログラムを作成して運動の技能や体力を身につけることができる。			教員が指示したプログラムに従い、運動の技能や体力を身につけることができる。		教員の指示に従わず、運動の技能や体力を身につけることができない。	
到達目標3	活動中、自己のみならず仲間も安全に留意し、必要に応じて危険を回避する行動を取る事ができる。			活動中、自分の安全に留意し、必要に応じて危険を回避する行動を取ることができる。		活動中、安全に留意して活動できない。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	運動を行うことにより、運動することの楽しさや喜びの実感、運動に必要な技能の習得及び体力の向上を図る。あわせて自ら意欲的に運動に取り組む姿勢や、生涯にわたって運動に親しむ態度を育てる。特に本授業では、生涯スポーツの観点から、自己の能力や興味関心に応じて種目を選択させ、運動を安全かつ楽しみながら実践できるよう、工夫・協力しながら学習することに重点を置く。						
授業の進め方・方法							
注意点	普段から健康管理を心がけ、風邪などにより授業を見学・欠席することの無いよう気をつけてください。 学校指定の体操服で活動してください。 天候等、やむを得ない事情により、実施種目は変更されることがあります。 前期の体育大会は授業時数に含まれますので、欠席しないようにして下さい。						
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	種目選択と実践		(1)各種目のルールを理解し説明できる。		
		2週	種目選択と実践		(2)各種目の基本的な個人技能を習得する。		
		3週	種目選択と実践		(3)互いに協力し、ゲームを実践できる。		
		4週	種目選択と実践		(3)互いに協力し、ゲームを実践できる。		
		5週	種目選択と実践		(3)互いに協力し、ゲームを実践できる。		
		6週	種目選択と実践		(3)互いに協力し、ゲームを実践できる。		
		7週	種目選択と実践		(3)互いに協力し、ゲームを実践できる。		
		8週	種目選択と実践		(3)互いに協力し、ゲームを実践できる。		
	2ndQ	9週	種目選択と実践		(3)互いに協力し、ゲームを実践できる。		
		10週	種目選択と実践		(3)互いに協力し、ゲームを実践できる。		
		11週	種目選択と実践		(3)互いに協力し、ゲームを実践できる。		
		12週	種目選択と実践		(3)互いに協力し、ゲームを実践できる。		
		13週	体育大会(前期)		(1)参加する種目で、仲間と協力してゲームを実践できる。		
		14週	体育大会(前期)		(1)参加する種目で、仲間と協力してゲームを実践できる。		
		15週	体育大会(前期)		(1)参加する種目で、仲間と協力してゲームを実践できる。		
		16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	0	0	100	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	100	100

阿南工業高等専門学校		開講年度	平成27年度 (2015年度)		授業科目	英語総合 2		
科目基礎情報								
科目番号	0041		科目区分		一般 / 選択			
授業形態	授業		単位の種別と単位数		学修単位: 2			
開設学科	一般教科（平成25年度以前入学生）		対象学年		5			
開設期	前期		週時間数		2			
教科書/教材	Reading Explorer 1 (CENGAGE Learning)							
担当教員	勝藤 和子							
到達目標								
1.教材(DVD及び英文エッセイ)で用いられている、英語表現を理解するために必要な語彙・語法を習得する。 2.英語DVDを視聴し、その概要を正確に理解し、説明することができる。 3.300～400語程度の英文エッセイを読んで、その概要を正確に把握し、説明することができる。								
ルーブリック								
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安			
到達目標1	教材で扱われた語彙・語法を適切に文脈の中で理解し、90%以上の正確さで自ら運用できる。		教材で扱われた語彙・語法を文脈の中で概ね理解したうえで、60～89%程度の正確さで使用できる。		教材で扱われた語彙・語法を適切に文脈の中で理解することが困難で、適切に使用することができない。			
到達目標2	2分程度の英語DVDを視聴し、その概要を正確に理解し、要点をまとめることができる。		2分程度の英語DVDを視聴し、その概要を正確に理解することができる。		2分程度の英語DVDを視聴し、その概要を正確に理解することができない。			
到達目標3	300～400語程度の英文エッセイを読んで、その概要を正確に理解し、要点をまとめることができる。		300～400語程度の英文エッセイを読んで、その概要を正確に理解することができる。		300～400語程度の英文エッセイを読んで、その概要を正確に理解することができない。			
学科の到達目標項目との関係								
教育方法等								
概要	科学・芸術・社会問題など様々な題材を取り上げた英語DVDを視聴し、特有の語彙・語法・表現に慣れるとともにその概要を理解する。さらに、その分野に関連する300～400語程度の英文を読んで、特有の語彙・語法・表現に慣れるとともに、その概要を理解する。							
授業の進め方・方法								
注意点	1.授業には必ず辞書を持参すること。 2.単語テストを実施します。 3.【重要】自学自習用にノートを1冊用意すること。ルーズリーフ及びリングノートは認めません。							
授業計画								
		週	授業内容		週ごとの到達目標			
前期	1stQ	1週	オリエンテーション		シラバスの内容を理解する。			
		2週	Unit 1 A Amazing Animals ～ Unit 6 Small Worlds		(1)英語DVDの視聴を通して、概要を把握する。			
		3週	Unit 1 A Amazing Animals ～ Unit 6 Small Worlds		(2)英文エッセイを読んで、概要を把握する。			
		4週	Unit 1 A Amazing Animals ～ Unit 6 Small Worlds		(3)特徴的な語彙・表現を理解する。			
		5週	Unit 1 A Amazing Animals ～ Unit 6 Small Worlds		(3)特徴的な語彙・表現を理解する。			
		6週	Unit 1 A Amazing Animals ～ Unit 6 Small Worlds		(3)特徴的な語彙・表現を理解する。			
		7週	Unit 1 A Amazing Animals ～ Unit 6 Small Worlds		(3)特徴的な語彙・表現を理解する。			
		8週	前期中間テスト					
	2ndQ	9週	Unit 7 Dinosaurs Ruled ～ Unit 12 Vanished!		(1)英語DVDの視聴を通して、概要を把握する。			
		10週	Unit 7 Dinosaurs Ruled ～ Unit 12 Vanished!		(2)英文エッセイを読んで、概要を把握する。			
		11週	Unit 7 Dinosaurs Ruled ～ Unit 12 Vanished!		(3)特徴的な語彙・表現を理解する。			
		12週	Unit 7 Dinosaurs Ruled ～ Unit 12 Vanished!		(3)特徴的な語彙・表現を理解する。			
		13週	Unit 7 Dinosaurs Ruled ～ Unit 12 Vanished!		(3)特徴的な語彙・表現を理解する。			
		14週	Unit 7 Dinosaurs Ruled ～ Unit 12 Vanished!		(3)特徴的な語彙・表現を理解する。			
		15週	Unit 7 Dinosaurs Ruled ～ Unit 12 Vanished!		(3)特徴的な語彙・表現を理解する。			
		16週	前期末試験 答案返却					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標								
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標				到達レベル	授業週
評価割合								
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	小テスト	合計
総合評価割合	70	0	0	0	15	0	15	100
基礎的能力	70	0	0	0	15	0	15	100

專門的能力	0	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0	0

阿南工業高等専門学校		開講年度	平成27年度 (2015年度)		授業科目	日本語の表現	
科目基礎情報							
科目番号	0042			科目区分	一般 / 選択		
授業形態	授業			単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	一般教科（平成25年度以前入学生）			対象学年	5		
開設期	前期			週時間数	2		
教科書/教材	高専日本語アビリティⅡ（阿南高専国語）						
担当教員	錦織 浩文						
到達目標							
1.敬語、表現ルールの基本を用い、ビジネス文書等を作成できる。 2.社会マナー・ルールの基本を用いた行動ができる。 3.表現法の基本を活用し、社会的なテーマについて情報収集・分類を行い、表現できる。 4.ファシリテーション、聴く技術について説明し、実践できる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
到達目標1	敬語、表現ルールの基礎知識を適切に用い、効果的なビジネス文書等を作成できる。			敬語、表現ルールの基礎知識を用い、ビジネス文書等を作成できる。		敬語、表現ルールの基礎知識に欠ける。	
到達目標2	社会マナー・ルールの基礎知識を適切に用いた効果的な行動ができる。			社会マナー・ルールの基礎知識を用いた行動ができる。		社会マナー・ルールの基本知識に欠ける。	
到達目標3	表現法の基礎知識を活用し、社会的なテーマについて情報収集・選択・構成を行い、効果的に表現できる。			表現法の基礎知識を活用し、社会的なテーマについて情報収集・選択・構成を行い、表現できる。		表現法の基礎知識に欠け、社会的なテーマについての情報収集・選択・構成による表現ができない。	
到達目標4	ファシリテーション、聴く技術について説明し、効果的に実践できる。			ファシリテーション、聴く技術について説明し、実践できる。		ファシリテーション、聴く技術について説明できない。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	社会で必要な口頭、文書表現能力の基礎を理解し、適切に使用して表現できる。						
授業の進め方・方法							
注意点							
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	敬語		敬語の基本を説明し、運用できる。		
		2週	電話		電話対応の基本形を説明し、運用できる。		
		3週	記録		記録・報告の基本形について説明し、作成できる。		
		4週	通信文		通信文の基本形について説明し、作成できる。		
		5週	通信文		通信文の基本形について説明し、作成できる。		
		6週	短歌・俳句		短歌・俳句の基本を説明し、作成できる。		
		7週	短歌・俳句		短歌・俳句の基本を説明し、作成できる。		
		8週	社会へのエントリー		社会的視点・ルールに則った言動について説明し、実践できる。		
	2ndQ	9週	社会へのエントリー		社会的視点・ルールに則った言動について説明し、実践できる。		
		10週	社会へのエントリー		社会的視点・ルールに則った言動について説明し、実践できる。		
		11週	ファシリテーション		合意形成のためのファシリテーションについて説明し、実践できる。		
		12週	ファシリテーション		合意形成のためのファシリテーションについて説明し、実践できる。		
		13週	ファシリテーション		合意形成のためのファシリテーションについて説明し、実践できる。		
		14週	聴く技術		聴く技術について説明し、実践できる。		
		15週	学年末試験 答案返却				
		16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	20	0	0	20	0	120
基礎的能力	60	10	0	0	20	0	90
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	20	10	0	0	0	0	30

阿南工業高等専門学校		開講年度	平成27年度 (2015年度)		授業科目	英語の語彙・文法（3）	
科目基礎情報							
科目番号	0043		科目区分		一般 / 選択		
授業形態	授業		単位の種別と単位数		履修単位: 1		
開設学科	一般教科（平成25年度以前入学生）		対象学年		5		
開設期	前期		週時間数		2		
教科書/教材	Fast Pass for the TOEIC TEST（センゲージラーニング株式会社）、Perfect Practice for the TOEIC TEST/TOEIC テストs						
担当教員	谷中 俊裕						
到達目標							
1.教科書・語彙集で学習した語彙を理解し運用できるようにする。 2.教科書で取り上げた文法事項や構文を理解し運用できるようにする。 3.TOEICスコア425点以上に相当する読解力を身に付ける。 4.TOEICスコア425点以上に相当するリスニング力を身に付ける。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベル		標準的な到達レベル		未到達レベル		
到達目標1	教科書・参考書などの教材で学習した語彙・表現を適切な文脈において理解し自ら運用できる。		教科書・参考書などの教材で学習した語彙・表現を適切な文脈において理解できる。		左記のレベルに達しない。		
到達目標2	教科書・参考書などの教材で学習した英文法項目や構文を適切な文脈において理解し自ら運用できる。		教科書・参考書などの教材で学習した英文法項目や構文を適切な文脈において理解できる。		左記のレベルに達しない。		
到達目標3	教科書で学習したものと同程度の読解において十分理解しTOEICで425点以上を取得できる。		教科書で学習したものと同程度の読解において十分理解しTOEICで375点以上を取得できる。		左記のレベルに達しない。		
到達目標4	教科書で学習したものと同程度のリスニングにおいて十分理解しTOEICで425点以上を取得できる。		教科書で学習したものと同程度のリスニングにおいて十分理解しTOEICで375点以上を取得できる。		左記のレベルに達しない。		
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	TOEICスコア425点以上の取得を目指し、英語の語彙力、文法力、読解力、リスニング力の向上を図る。						
授業の進め方・方法							
注意点	1.授業には辞書（電子辞書可）を持参すること 2.オリエンテーションで説明するやり方で十分予習・復習を行うこと。 3.【重要】TOEICスコアを成績に含めるので前期に実施されるTOEICを必ず受験すること。（獲得スコアが350点未満の場合、総合評価の「その他」の10点分が与えられない。）						
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	オリエンテーション		シラバスの確認、学習方法の解説		
		2週	Unit 1～6		TOEICテストで425点を獲得するために必要な解読スピードと読解力を獲得。 TOEICテストで扱われる英文法や英文構造理解する。 TOEICテストで扱われる語彙を暗記する。 TOEICテストで425点を取るために必要なリスニング力を獲得できる。		
		3週	Unit 1～6		TOEICテストで425点を獲得するために必要な解読スピードと読解力を獲得。 TOEICテストで扱われる英文法や英文構造理解する。 TOEICテストで扱われる語彙を暗記する。 TOEICテストで425点を取るために必要なリスニング力を獲得できる。		
		4週	Unit 1～6		TOEICテストで425点を獲得するために必要な解読スピードと読解力を獲得。 TOEICテストで扱われる英文法や英文構造理解する。 TOEICテストで扱われる語彙を暗記する。 TOEICテストで425点を取るために必要なリスニング力を獲得できる。		
		5週	Unit 1～6		TOEICテストで425点を獲得するために必要な解読スピードと読解力を獲得。 TOEICテストで扱われる英文法や英文構造理解する。 TOEICテストで扱われる語彙を暗記する。 TOEICテストで425点を取るために必要なリスニング力を獲得できる。		
		6週	Unit 1～6		TOEICテストで425点を獲得するために必要な解読スピードと読解力を獲得。 TOEICテストで扱われる英文法や英文構造理解する。 TOEICテストで扱われる語彙を暗記する。 TOEICテストで425点を取るために必要なリスニング力を獲得できる。		
		7週	Unit 1～6		TOEICテストで425点を獲得するために必要な解読スピードと読解力を獲得。 TOEICテストで扱われる英文法や英文構造理解する。 TOEICテストで扱われる語彙を暗記する。 TOEICテストで425点を取るために必要なリスニング力を獲得できる。		
		8週	前期中間試験				

2ndQ	9週	Unit 7～12	TOEICテストで425点を獲得するために必要な解読スピードと読解力を獲得。 TOEICテストで扱われる英文法や英文構造理解する。 TOEICテストで扱われる語彙を暗記する。 TOEICテストで425点を取るために必要なリスニング力を獲得できる。
	10週	Unit 7～12	TOEICテストで425点を獲得するために必要な解読スピードと読解力を獲得。 TOEICテストで扱われる英文法や英文構造理解する。 TOEICテストで扱われる語彙を暗記する。 TOEICテストで425点を取るために必要なリスニング力を獲得できる。
	11週	Unit 7～12	TOEICテストで425点を獲得するために必要な解読スピードと読解力を獲得。 TOEICテストで扱われる英文法や英文構造理解する。 TOEICテストで扱われる語彙を暗記する。 TOEICテストで425点を取るために必要なリスニング力を獲得できる。。
	12週	Unit 7～12	TOEICテストで425点を獲得するために必要な解読スピードと読解力を獲得。 TOEICテストで扱われる英文法や英文構造理解する。 TOEICテストで扱われる語彙を暗記する。 TOEICテストで425点を取るために必要なリスニング力を獲得できる。
	13週	Unit 7～12	TOEICテストで425点を獲得するために必要な解読スピードと読解力を獲得。 TOEICテストで扱われる英文法や英文構造理解する。 TOEICテストで扱われる語彙を暗記する。 TOEICテストで425点を取るために必要なリスニング力を獲得できる。
	14週	Unit 7～12	TOEICテストで425点を獲得するために必要な解読スピードと読解力を獲得。 TOEICテストで扱われる英文法や英文構造理解する。 TOEICテストで扱われる語彙を暗記する。 TOEICテストで425点を取るために必要なリスニング力を獲得できる。
	15週	Unit 7～12	TOEICテストで425点を獲得するために必要な解読スピードと読解力を獲得。 TOEICテストで扱われる英文法や英文構造理解する。 TOEICテストで扱われる語彙を暗記する。 TOEICテストで425点を取るために必要なリスニング力を獲得できる。
	16週	前期期末試験	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
評価割合						
	定期試験	小テスト	レポート・課題	発表	その他	合計
総合評価割合	60	10	20	0	10	100
基礎的能力	60	10	20	0	10	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0

阿南工業高等専門学校		開講年度	平成27年度 (2015年度)		授業科目	英語の語彙・文法（４）	
科目基礎情報							
科目番号	0044		科目区分		一般 / 選択		
授業形態	授業		単位の種別と単位数		履修単位: 1		
開設学科	一般教科（平成25年度以前入学生）		対象学年		5		
開設期	後期		週時間数		2		
教科書/教材	THE TOEIC TEST TRAINER TARGET 470,Masahiko Yamaguchi,George W.Pifer,Cengage Learning/TOEIC テスト新公式問題集 vol.1～3						
担当教員	藤井 浩美						
到達目標							
1.TOEICの出題傾向を把握し、出題形式に慣れ、各パートの問題形式に適切に対応することができる。 2.教科書や語彙集で取り上げた語彙・文法、決まり文句の60%以上を記憶し、正しく運用できる。 3.TOEICスコア375～450点、もしくはそれ以上を取得できる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
到達目標1	TOEICの出題傾向を把握し、出題形式に慣れ、各パートの問題形式に精通し、適切な対応ができる。		TOEICの出題傾向を把握し、出題形式に慣れ、各パートの問題形式に対応することができる。		TOEICの出題傾向を把握できず、出題形式に不慣れで、各パートの問題形式に対応することができない。		
到達目標2	教科書や語彙集で取り上げた語彙・文法、決まり文句の90%以上を記憶し、正しく運用できる。		教科書や語彙集で取り上げた語彙・文法、決まり文句の60%以上を記憶し、ほぼ正しく運用できる。		教科書や語彙集で取り上げた語彙・文法、決まり文句の記憶が60%未満で、運用力が低い。		
到達目標3	TOEICスコア450点以上を取得できる。		TOEICスコア375～445点を取得できる。		TOEICスコア375点以上を満たすことができない。		
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	TOEIC実践形式の問題演習を通して語彙力、文法力、聴解力、読解力を総合的に向上させ、450点以上のTOEICスコア達成を目指す。ダイアログ式の単語・熟語集を用いて、単語や熟語を記憶し、適切に運用する能力を習得する。						
授業の進め方・方法							
注意点	1.必ず予習をして授業に臨むこと。 2.授業には辞書（電子辞書可）を持参すること。 3.英単語・ダイアログ1200の小テストを実施するので日頃から計画的に取り組んでおくこと。 4.【重要】後学期中にTOEIC IPテストを必ず受験すること。（375点未満は評価割合の「その他」の得点が与えられない。）						
授業計画							
後期	3rdQ	週	授業内容			週ごとの到達目標	
		1週	オリエンテーション				
		2週	Unit1 ～ Unit6			(1)TOEICの出題傾向を把握し、出題形式に慣れ、各パートの問題形式に適切に対応することができる。	
		3週	Unit1 ～ Unit6			(2)教科書や語彙集にある予定、数量を訪ねる、命令・依頼、広告宣伝、時間を尋ねる、場所を尋ねる、などのコンテキストで用いられる語彙・構文・決まり文句の60%以上を記憶しほぼ正しく運用できる。	
		4週	Unit1 ～ Unit6			(2)教科書や語彙集にある予定、数量を訪ねる、命令・依頼、広告宣伝、時間を尋ねる、場所を尋ねる、などのコンテキストで用いられる語彙・構文・決まり文句の60%以上を記憶しほぼ正しく運用できる。	
		5週	Unit1 ～ Unit6			(2)教科書や語彙集にある予定、数量を訪ねる、命令・依頼、広告宣伝、時間を尋ねる、場所を尋ねる、などのコンテキストで用いられる語彙・構文・決まり文句の60%以上を記憶しほぼ正しく運用できる。	
		6週	Unit1 ～ Unit6			(2)教科書や語彙集にある予定、数量を訪ねる、命令・依頼、広告宣伝、時間を尋ねる、場所を尋ねる、などのコンテキストで用いられる語彙・構文・決まり文句の60%以上を記憶しほぼ正しく運用できる。	
		7週	Unit1 ～ Unit6			(2)教科書や語彙集にある予定、数量を訪ねる、命令・依頼、広告宣伝、時間を尋ねる、場所を尋ねる、などのコンテキストで用いられる語彙・構文・決まり文句の60%以上を記憶しほぼ正しく運用できる。	
	8週	中間テスト					
	4thQ	9週	Unit7 ～ Unit12			(1)引き続きTOEICの出題傾向を把握し、出題形式に慣れ、各パートの問題形式に適切に対応することができる。	
		10週	Unit7 ～ Unit12			(2)教科書や語彙集にある確認、留守電、アドバイス、誘い、申し出、講演者紹介などのコンテキストで用いられる語彙・構文・決まり文句の60%以上を記憶しほぼ正しく運用できる。	
		11週	Unit7 ～ Unit12			(2)教科書や語彙集にある確認、留守電、アドバイス、誘い、申し出、講演者紹介などのコンテキストで用いられる語彙・構文・決まり文句の60%以上を記憶しほぼ正しく運用できる。	
12週		Unit7 ～ Unit12			(2)教科書や語彙集にある確認、留守電、アドバイス、誘い、申し出、講演者紹介などのコンテキストで用いられる語彙・構文・決まり文句の60%以上を記憶しほぼ正しく運用できる。		

		13週	Unit7 ~ Unit12	(2)教科書や語彙集にある確認、留守電、アドバイス、誘い、申し出、講演者紹介などのコンテキストで用いられる語彙・構文・決まり文句の60%以上を記憶しほぼ正しく運用できる。
		14週	Unit7 ~ Unit12	(2)教科書や語彙集にある確認、留守電、アドバイス、誘い、申し出、講演者紹介などのコンテキストで用いられる語彙・構文・決まり文句の60%以上を記憶しほぼ正しく運用できる。
		15週	Unit7 ~ Unit12	(2)教科書や語彙集にある確認、留守電、アドバイス、誘い、申し出、講演者紹介などのコンテキストで用いられる語彙・構文・決まり文句の60%以上を記憶しほぼ正しく運用できる。
		16週	期末テスト	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	小テスト	合計
総合評価割合	60	0	0	0	20	10	10	100
基礎的能力	60	0	0	0	20	10	10	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0	0

阿南工業高等専門学校		開講年度	平成27年度 (2015年度)		授業科目	中国語		
科目基礎情報								
科目番号	0045			科目区分	一般 / 選択			
授業形態	授業			単位の種別と単位数	履修単位: 1			
開設学科	一般教科（平成25年度以前入学生）			対象学年	5			
開設期	後期			週時間数	2			
教科書/教材	中国語 初めの一步(白水社)/							
担当教員	鄭 涛							
到達目標								
1.中国の文化と生活に関する基礎的な知識を理解し、説明できる。 2.中国語の発音と基本な文法を理解し、説明できる。 3.中国語の基礎的な日常会話ができる。								
ルーブリック								
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
到達目標1	中国語の社会事情、文化、生活に関することについて興味を持ち、理解できる。			中国の社会事情、文化、生活に関することについてある程度理解できる。		中国の社会事情、文化、生活に関することについて理解できない。		
到達目標2	発音記号に従って、中国語を正しく発音できる。			発音記号に従って、中国語の発音ができる。		発音記号に従って、中国語を発音できない。		
到達目標3	簡単な日常会話が流暢にできる。			簡単な日常会話ができる。		簡単な日常会話ができない。		
学科の到達目標項目との関係								
教育方法等								
概要	中国の社会事情、生活・文化に関する基礎的な知識を理解するとともに、中国語の発音と表現に関する基礎知識、及び基礎的な会話を練習する。							
授業の進め方・方法	授業は会話に関する学習と練習を基本とする。							
注意点	外国語の勉強は話すことが重要なので、授業中、積極的な態度で声を出すこと。							
授業計画								
		週	授業内容		週ごとの到達目標			
後期	3rdQ	1週	ガイダンス		シラバスによって、到達目標・評価割合・達成度基準などを理解する。			
		2週	オリエンテーション		中国の社会事情、文化・生活、中国語の基本に関することを理解する。			
		3週	中国語の基礎：発音		発音記号に従って、中国語の発音ができる。			
		4週	中国語の基礎：発音		発音記号に従って、中国語の発音ができる。			
		5週	中国語の会話入門		簡単な日常会話ができる。			
		6週	中国語の会話入門		簡単な日常会話ができる。			
		7週	会話の練習と小テスト		簡単な日常会話ができる。			
		8週	会話の練習と小テスト		簡単な日常会話ができる。			
	4thQ	9週	会話の練習と小テスト		簡単な日常会話ができる。			
		10週	会話の練習と小テスト		簡単な日常会話ができる。			
		11週	後期中間試験					
		12週	会話と小テスト		簡単な日常会話ができる。			
		13週	会話と小テスト		簡単な日常会話ができる。			
		14週	会話と小テスト		簡単な日常会話ができる。			
		15週	会話と小テスト		簡単な日常会話ができる。			
		16週	後期期末試験					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標								
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標				到達レベル	授業週
評価割合								
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	小テスト	合計
総合評価割合	60	0	0	0	0	20	20	100
基礎的能力	60	0	0	0	0	20	20	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0	0